

No. 41 >>> Contents

●提携トピックス

長浜ちりめんと共に歩んで

・・・・・・・・・・ 南久ちりめん株式会社 代表取締役 長谷 幸治 ————— ①

●蚕糸絹トピックス

「シルク・サミット 2014 in シルクファクトおかや」の開催

独立行政法人農業生物資源研究所 遺伝子組換えカイコ研究開発ユニット

・・・・・・・・・・ 主任研究員 岡田 英二 ————— ④

「絹のみち広域連携プロジェクト」キックオフ会議、絹のみちの祭典を開催して

・・・・・・・・・・ 経済産業省関東経済産業局産業部 流通・サービス産業課 ————— ⑫

●国内情報

新シルク産業の創造に向けて

・・・・・・・・・・ 京都府京丹後市 商工振興課長 高橋 尚義 ————— ⑪

シルク遺産を訪ねて②⑩

石川繊維資料館・・・・・・・・東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ————— ⑫

●シルク豆辞典

冬の桑畑と桑の剪定

・・・・・・・・・・ 東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳 ————— ⑫

●研究・技術情報

カイコの卵ができるまで ～蚕種製造の現場から～

・・・・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所 研究員 池嶋 智美 ————— ⑬

●二瓶博さんへの弔辞

・・・・・・・・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会 顧問 吉國 隆 ————— ⑭

・・・・・・・・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 高木 賢 ————— ⑮

●イベント情報

●提携支援センターから

提携支援センター活動日誌 ————— ⑯

平成 26 年度第 5 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ————— ⑰

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ————— ⑱

●蚕糸絹関係博物館一覧 ————— ⑳

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ————— ㉑

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。） ————— ㉒

長浜ちりめんと共に歩んで

南久ちりめん株式会社（滋賀県長浜市）

代表取締役 長谷 幸治

縮緬（ちりめん）産地として栄えた滋賀県長浜地方は、往時より全国一の上質生糸の産地としても知られ、また712年の元明天皇の和銅年間に既に綾錦が織り出されていました。その後、「あしぎぬ」「浜ぎぬ」として織り継がれ、宝暦2（1752）年中村林助（なかむらりんすけ）、乾庄九郎（いぬいしょうくろう）の両人の献身的努力によって浜ちりめんが創始され、彦根藩の手厚い保護のもとに年と共に繁栄し、今日ちりめん界の最高峰としての礎となりました。

今日栄えているのは、長浜の風土との関係も重要な要素です。湖、山また川に囲まれ、織物機業に最適の湿度があること。日本最大の大湖、琵琶湖は世界屈指の軟水で

あり絹織物精練加工に適していること。また本州の中心に位置し、東海、京阪、北陸の要路にあり、大集散地への交通に恵まれたことなどもあげられます。

そんな浜ちりめんをはじめて当社もおおよそ140年、神照（かみてる）村字南方に住し長谷久松の一文字を取った「南久」の商標とともに歩んで参りました。手機で一糸一糸を織り込んだそんな時代より、動力が入り力織機にと一大革命の時期あり、戦争あり、神武景気ありオイルショックあり紆余曲折の140年でしたが綿々とその技術は受け継がれ磨かれて参りました。



琵琶湖



浜縮緬創製記念碑



南久ちりめん（株） 玄関

自社一貫生産、品質へのこだわり

浜ちりめんの大半は無地織物で、用途も高級友禅等フォーマル着物にお使いいただくことが多いため、品質には非常にこだわりを持って商品づくりに当たっております。生糸から白生地になるまで、精練という協同組合事業を除く、およそ 30 ～ 40 にも及ぶ全ての工程を自社一貫にて行っております。また全ての工程において、生糸本来の持つ風合いを損ねぬように低温低速での処理を心掛けております。生糸にある節（染料たまりの原因となります。）の除去も結び目が大きくならないように生糸 1 本、単糸の段階でセンサーを使用して取り除いていきます。そうして綺麗にした糸を何本か合わせては撚りをかけ、撚りをかけたもの同士を合わせてはまた撚りをかけ、時には解き、そのようなことを幾重にも繰り返しながら緯（よこ）糸＝‘ちりめんのシボ’をつくっていきます。

自社内に準備工程をとどめ置くことは確かにコストのかかることですが、準備工程を持っているからこそ作れるもの、差別化できることがたくさんあると考えておりま

す。弊社としましては、そこにこだわり皆様に喜んでいただける商品を今まで以上に発信していきたいと考え、今も若手人材の育成や設備投資なども積極的に行っております（織手の平均年齢は 30 代半ばで全従業員の平均年齢でも 40 代後半です）。

国産生糸への想い

当社では国産生糸を、その年によって多い少ないはありますが、創業以来ずっと使わせていただいております。それには弊社の国産生糸への想いがあります。地産地消を尊重した歴史的建物である、神社や仏閣がそうであるように、日本のきものは日本の風土で育ち繰糸された生糸で織るのが一番自然なことですし、数字では表せませんが日本の気候に一番適したきものができるのではないのでしょうか。

また国産生糸には輸入生糸と比較して差のある特徴があると感じております。一つ例を挙げますとセリシンの出る量といいましか落ちる度合いに差があると感じております。これは浜ちりめんの最大の特徴であります‘ちりめんのシボ’を出すために行う八丁撚糸工程でよくわかります。それまでといえばそれまでのことなのですが、視点を変えてこの差に着眼し、その差を活かした撚糸工程を考えることにより、出来上がる織物の風合いやシボなどに特徴が少しでも出るように工夫をしております。

弊社では色々な品種の国産生糸を扱わせていただいておりますが蚕品種それぞれに特徴がありますし、同じ蚕品種でも繭の年



糸繰



節取り



ぬきたき（八丁撚糸をかける前に
引き揃えた糸を釜で煮る工程）



機場

度などによって毎回少しずつ違いを感じます。新しい糸が届くたびに“今回の糸はいったいどんな糸だろう”といつも期待と緊張でドキドキしながら糸と向かい合っております。そして少しずつ糸を使いながら、だんだんとその糸にあった扱い方、工程にアレンジしていきます。製造の現場はとても大変ですが、その糸が美しい織物になった時の感動とお客様から「今度の生地はものすごく染付がよかったよ!」といったようなお褒めのお言葉を頂くととても嬉しいです。おそろく国産生糸は日本の伝統的な染色技法とも相性がいいのではないかと思います。

今後とも純国産生糸の取り組みがますます盛んになりそして発展していきますよう、微力ではありますが弊社も糸を織物の形にするという立場で頑張っていきたいと思っています。

■南久ちりめん株式会社のプロフィール

代表取締役 長谷 幸治

〒 526-0015 滋賀県長浜市神照町 544

電話：0749-62-0730

FAX：0749-62-0704

E-mail：h.nankyu@crux.ocn.ne.jp

「シルク・サミット 2014 in シルクファクトおかや」の開催

独立行政法人農業生物資源研究所
遺伝子組換えカイコ研究開発ユニット

主任研究員 岡田 英二

本年度は、先に2014年4月17、18日「富岡製糸場」においてシルク・サミットを開催しました。ご参加頂いた方には記憶に新しいことと存じますが、お陰様で、富岡製糸場と絹産業遺産群に対する世界遺産登録直前の良いイベントになりました。そして更に、11月に行われた「シルク・サミット 2014 in シルクファクトおかや」の開催で、異例の一年に2度の開催となりました。

後者のシルク・サミットは岡谷蚕糸博物館—シルクファクトおかや—で2014年11月28、29日の両日に開催されました。この1年に2度となった理由は、岡谷市民病院のすぐ横にあった市立岡谷蚕糸博物館

が、農業生物資源研究所生活資材開発ユニットの旧施設へと移転し、リニューアルされ、2014年8月1日に開館となったためです。予（あらかじ）めこのことが分かっていましたので、岡谷開催は、当博物館の移転する2年以上も前から予定されていたのです。岡谷での開催は、シルク・ミュージアム・サミットと呼んでいた初回（第1回：2001年）を含めると、第11回（2010年）、そして、この度の第16回（2014年）の計3回と最多のサミット開催地となりました。近代日本のシルクを牽引（けんいん）してきたという矜持（きょうじ）が、こんなところにも強く表れていると感じました。今回のサブテーマに「一蚕糸の歴史に



会場の様子

学び、未来を思考する一」とあるように、博物館では製糸器械類や資料を時代背景に基づき展示された魅力や、歴史に学んだ知恵を活かして実際に繰糸されている宮坂製糸所の現場を同時に同所で見る事が出来る演出効果、さらに世界遺産の富岡効果もあり、参加者は150名と盛況で、シルクに関心が高くなってきたことが窺（うかが）える良いサミットとなりました。

一日目は、午前9時から正午まで、岡谷市のご配慮により無料で博物館の見学ができ、午後1時から開会、基調講演が1課題、特別講演が2課題、研究活動報告が4件ありました。二日目は、高林館長による解説で博物館の見学をし、その後、2つのコースに分かれ市内にある岡谷近代化産業遺産を巡る見学会を行いました。

一日目の内容は、まず高林千幸氏（岡谷蚕糸博物館館長）から「岡谷蚕糸博物館—シルクファクトおかや—の見どころ」と題して基調講演がありました。初めに、衝撃の写真という題で1枚の写真が大写しされ、そこには、広場をびっしりと埋め尽くす若い女の人が少し高いところから写されているものでした。昭和の初期のものです。当時の岡谷の人口の半分以上は若い女の人だったと云うことです。「岡谷の製糸業」という本の一文を引用し、「一農村が近代になって工業都市として大を成したことは、日本の中では極めて珍しい」、それはこのような若い工女さんらによって支えられていたというお話しでした。次に氏の



基調講演（高林千幸館長）

人生を変えた一品でちっぽけな歯車が写され、これが博物館に展示されているそうですが、「無音絹歯車」といい、高林氏にとっては掛け替えのないもので、「研究とはこのようなもの」と、研究者となった40年前にこの歯車に感動したことを語り、聴衆を講演に引きつけていらっしゃいました。この後、岡谷蚕糸業の発展や富岡製糸場との係わり、工女さんの生活、岡谷の製糸業等々、見どころをお話しくださり、特に、繰糸機の発展について、武居代次郎（たけいだいじろう）によるイタリア式とフランス式の折衷（せっちゅう）である諏訪式の開発、御法川式（みのりかわしき）による逆転の発想が生んだ糸ムラの少ない低速多条繰糸、織度感知器によって実現した自動繰糸機等、日本・岡谷が作ってきた技術の粋（すい）が連綿と続いてきたことを聴き、感動しました。最後に、高林氏が仰った「未来のものづくりを考えるならば、先人の英知と努力を感受し、由緒ある新鮮さに触れて、明日、未来への活力となるよう感じ取って頂きたい。」という言葉が、岡

谷蚕糸博物館の存在そのものであり、とても良い講演となりました。

次に、鵜田章（ときたあきら）氏（アンティークストッキング収集研究家）から「絹ストッキングの記憶 ストッキングは昔、男性貴族が穿（は）いていた」と題して、特別講演がありました。登場の時点で驚かされたのが、大きな黄色いキャリーバッグに、真っ赤なジャケット、手には碧（あお）いファイルを持ち、信号機のように人目を釘付けにするような出で立ちで、高校生の間で流行ったルーズソックスの開発者です。講演は、1 養蚕の始まり、2 ストッキングの起こり、3 日本で最初に穿いた人、4 フランス博物館巡りで出会った扶桑撰、5 ナポレオン3世と徳川家茂（いえもち）、6 日本の桑がフランスへ、7 信州の手漉（す）き蚕種紙、8 ウイリアム・リーの莫大小（メリヤス）編機、9 男性貴族は脚ばかり見ていた、10 アメリカが強くなる、という小題にて十の短話に分けて、お話しくださりました。内容は、須田金之助の蠶学（さんがく）やイストアール・ドウ・ラ・

ソアエなどから養蚕起源が紀元前 2697 年と断定したり、ストッキングは 3 世紀の欧州のカットしたズボンが起こりであり、カットストッキングと呼ばれているが、ストッキングは棒（ストック）で編むことに由来するので、これはホーズである。欧州ではストッキングは王様への献上品であるから、残存している日本最古のものは水戸光圀であっても最初に穿いていたのは南蛮人渡来の盛んだった頃の王的存在だった織田信長ではないか。絹といえば養蚕家は織物を連想するが、鵜田氏は 50 年ストッキングに携（たずさ）わってきたので、絹と聞くと編物を思い浮かべ、その編機を開発したリーの発明絵図が本国イギリスのものは間違いで、日本の錦絵に乗っている機械の図こそ本物である等々、非常にユニークで楽しいお話を聞かせて頂きました。

さらに、伊豆原月絵氏（日本大学理工学部教授）から「18 世紀ロココの宮廷衣装の復元ー絹の風合いを求めてー」と題して、特別講演がありました。ロココとは、ポンパドール夫人を中心としたフランス宮廷の



特別講演（鵜田章氏）



特別講演（伊豆原月絵 教授）

サロン文化が盛んな頃からバスチーユ襲撃のフランス革命まで続いた18世紀に華やいた様式で、この頃の女性の衣装はローブ・ア・ラ・フランセーズという重厚感のある紋織りでありながら、ふわっと軽いものであるというお話しで始まりました。人は何を美しいと感じるのか。美意識については服飾に表れ、日常の挨拶や仕草は、服飾の影響を大きく受けるそうです。服飾美学・服装史については文献資料で調べることが普通だそうですが、実際に手で触って、その場の光で物を見てという、現地調査をしなければ分からないことが多いようです。また、光沢や色調については写真で分かっていても、織物における柔らかさ、厚み、しなやかさなどの風合いは触ることで初めて解るとお話しくださいました。アジアで行った研究では、同じ絹文化を持ち、絹を衣装とする国であっても地域によって異なるのは、織り方や求めるものの違いであろうと考えていたそうですが、そこで育成される蚕品種の違いも大きな影響を与えていることが解ったと語っていました。復元研究

は、見た目がそっくりな物を再現することに終始しがちですが、見た目は同じでも風合いが異なることは、これまでの研究で明らかであり、それを踏まえて18世紀ロココの衣装を復元に伊豆原氏は取り組まれました。そのためには、往時の人々が何を求め、どの様に表現したか、そして、いつでも計測できるように手元に衣装を置き、また、欧州種のセヴェンヌ白の養蚕までも行い、その糸を用いてドレス製作を行ったと仰（おっしゃ）っていました。21中の経糸1本で整経したので、糸が頻繁に切れ、形にするのに苦労されたようですが、講演の傍（かたわ）らに白いドレスが飾られ、様々な風合いを持つ絹を作り出せる可能性について語られていたことに、感慨深いものを感じました。

その後、4例について研究活動報告がありました。まず、岡谷市立湊（みなと）小学校3年生全員による「カイコ学習から教わったもの」と題して、これまでに行ってきた春蚕や秋蚕のカイコ飼育の経緯や桑の

葉を使ったTシャツ染色の活動の紹介がありました。20人の子供達が1人ずつ交互に元気な声で威勢良く、絵を掲げたりして、行ってきたことを話していきました。特に会場に来た皆様に受けていたのは、話の途中で「ここで一句!」と大きな声で、自分たちが感じたカイコにまつわる出来事を俳句にして読み上げるところでした。子供達の後ろのスクリーンには当時の写真がスライドで映され、私達もその場で子供達と蚕を飼っているような気分になりました。報告している子供達は、皆同じTシャツを着ていましたが、これが、桑の葉による絞り



事例発表（湊小学校）

染めで、よく見ると同じと思っていたTシャツが、それぞれ模様の違うことが分かりました。最後に、このカイコ学習を通して、人との関わり、命とは何か、郷土の産業を学んだことを報告して終わりました。ちなみに、子供達は、この発表前の休み時間に繭で作ったストラップやしおりを元気いっぱい、販売していました。

次は、寺本英敏（（独）農業生物資源研究所主任研究員）氏から、「セリシン蚕を利用した化粧品・機能性食品への応用展開」と題して、氏の最新の研究内容と実用化への可能性について紹介がありました。まずは、研究所の職員になった頃のお話で、配属されたのがこの岡谷であり、同じ県内の松本で育種されたセリシンだけを吐くセリシンホープを知り、この研究を始めて10年が経ったとのことでした。カイコの糸はセリシン（2-3割）とフィブロイン（7-8割）タンパク質からできており、精練で除去されたセリシンの廃棄物を利用する取り組みは以前から行われていました。しかし、このセリシンは分子がズタズタに切られているので、セリシン本来の良い性質が活かされません。寺本氏は、収量の多いセリシンホープの繭を用いてセリシン分子を壊すことなく、セリシンを水に可溶化し、セリシンをゲルやキャスト、フィルムなどの様々な状態に形成して利用する方法を開発しました。そのためには、繭作りの時に通気性をよくして原料繭の性状の安定化、透析時のpHを制御するの2点が重要であ

ることもお話ししました。水との親和性が非常に良いのに溶けない性質が角膜への応用など、高度医療用への開発も期待されますが、もっと早く実用化し、市場へ出すために、化粧品や機能性食品への応用に取り組んでおり、既に化粧品は販売されているそうです。また、嚥下補助剤としてオブラートのように使う方法も特許を取ったと伺いました。今後、更なる応用へ期待したいと思います。

続いて、桑名芳彦（（独）農業生物資源研究所主任研究員）氏から「カイコが作るクモ糸シルクの利用」と題して、本人の最新の研究内容と実用化への可能性について紹介がありました。最初に、この研究はクモ糸遺伝子を取った瀬筒さん、これをカイコへ挿入した小島さん、この繭からクモ糸を繰糸した中島さん、そして、この糸の物性を調査した本人というように多くの人が関わった研究であることを話していました。オニグモの縦糸は昔から非常に強いことが知られていますが、オニグモは飼うのが非常に難しく、また、作られた蜘蛛の巣から糸を取ることは困難で、繊維としてクモ糸の利用はできないことが常識でした。桑名氏らはカイコの絹糸腺にクモ糸タンパクを発現させて、カイコとクモの糸が混合状態になった絹糸をカイコに吐かせることに成功し、強度や伸びが良くなって通常シルクの1.5倍の切れにくさになったことも話していました。初めは実験用のカイコを使っていたので、小さい繭の上に繰糸がで



事例発表（寺本英敏主任研究員）



特別講演（桑名芳彦主任研究員）

きなかったのですが、極細繊維の実用品種である中515号に遺伝子を組込み、また、クモ糸タンパクの含有量が増えるように改良し、繭層重を3倍に上げることに成功し、破断強度やタフネスが高くなったと語っていました。驚いたことに、たったの0.6%発現されただけなのに1.5倍の強度が上がったそうです。この事実を勘案しても、今後、クモ糸のタンパク質の含有量が飛躍的に増えればどのくらい糸の強度が強くなるのかが、本当の実用化を考えた意味で楽しみです。



特別講演（岡谷絹工房 小野町子代表）

一日目最後は、今回のサミットが岡谷で始まり、岡谷で終わるということで地元の小山町子氏（岡谷絹工房代表）から「岡谷絹工房の活動とこれからの方向」と題して、活動の紹介がありました。平成10年に絹の新たな生産地への希望として、工房を岡

谷近代化産業遺産である旧山一林組製糸事務所を拠点としてシルクファクト内部に設立されました。地元の宮坂製糸所で繰糸された糸を使い、当工房で製織したものを「岡谷絹」と呼んで、こだわりの製品作りを行ってきました。20台の機械を駆使してシルクファクトに製品を納め、中でも厳しい審査をクリアしてブレザーを製作されたことが印象に残りました。直ぐに織るわけにはいかない、何を作り、どの様に扱うのか？

それが今後の後継者育成に大きな重みになることもこの時、感じました。課題山積ですが、後継者育成、販路拡大、観光事業、搜索活動など、岡谷絹を使った搜索活動を地道に行い、今後、岡谷ブランドとして、手織りの良さや伝統を伝えられたら良いな



岡谷蚕糸博物館

と、語って頂きました。

二日目は、岡谷蚕糸博物館ーシルクファクトおかやーの見学を参加者全員で行った後、岡谷近代化産業遺産である旧山一林組製糸事務所が入ったAコースと旧林家住宅や片倉兼太郎の生家が入ったBコースにそれぞれ分かれて見学を行いました。博物館では、高林館長が自ら、多岐に亘る糸の関連を非常に楽しい形で私達に解説してくださいました。

なお、今年度は年に2回となるサミットを行いました。事務局としては、開催地との綿密な打合せがいつもの倍となり手間は掛かりましたが、世界遺産への登録や大勢の方のご参加とやりがいのあるものとなりました。皆様も時間がございましたら、世界遺産の富岡製糸場と絹産業遺産群、また、新岡谷蚕糸博物館と製糸工場（株式会社宮坂製糸所）へと足を運ばれて、日本の蚕糸業の歴史や文化に触れてみるのは、いかがでしょうか。



旧林家住宅

「絹のみち広域連携プロジェクト」キックオフ会議、 絹のみちの祭典を開催して

経済産業省関東経済産業局産業部
流通・サービス産業課

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を契機に、日本の「絹」製品をはじめ、絹に関する伝統技術・匠の技、絹関連地域に対して、国内外からの注目が集まりつつあります。

地域に目を転じてみると、絹産業を支えてきた事業者や地域の関係者がこれを追い風ととらえ新しい商品づくりや観光サービスの開発に積極的に取り組み始めています。

関東経済産業局は、かかる状況を踏まえ、絹関連地域において、高付加価値製品の開発・販売などに奮闘しているやる気のある事業者、研究機関、自治体など、熱き想いを共有する関係者が連携し、知恵を絞り、

地域の魅力を発信する「絹のみち広域連携プロジェクト」を立ち上げました。

今回は、本プロジェクトとして実施した2つのイベントについて概要を紹介します。

1 「絹のみち広域連携プロジェクト」 キックオフ会議

「絹のみち広域連携プロジェクト」キックオフ会議は、関東経済産業局、群馬県の主催により、平成26年12月17日に富岡製糸場において開催されました。富岡製糸場見学者300万人を達成した当日、国宝に指定された東繭倉庫の会場へ、自治体、支援機関、絹に関連・関心のある事業者等約200名の皆さまにご来場いただきました。



安藤久佳関東経済産業局長



キックオフ会議の全景

冒頭、安藤久佳関東経済産業局長から、今回のプロジェクトについて、国内外に絹をはじめとした地域資源を活用した地域ブランド商品や地域の歴史・文化の情報を広く発信するとともに、点から線、線から面へと連携による相乗効果を高め、地域経済の活性化を進めていく旨の挨拶がありました。また、岩井賢太郎富岡市長から、会議開催の御礼を含め、世界遺産となった富岡製糸場について、絹に関連するしっかりとした取組を行うため「富岡シルクブランド協議会」を立ち上げた旨の挨拶がありました。

続いて、イントロダクション（世界遺産最新レポート）として松浦利隆群馬県企画部世界遺産課長から、関係省庁プレゼンテーションとして渡辺豊関東経済産業局産業部長、末松広行関東農政局長、鈴木史朗関東運輸局企画観光部長から、それぞれ発表がありました。富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録への道のりや、絹のみち広域連携プロジェクトに期待すること、近代日本の礎を築いた蚕糸業のこと、関東学生「インバウンド広域観光周遊ルート」旅行企画コンテストと、絹を切り口に過去の歴史を踏まえこれからに向かっての様々な取組が披露されました。

「『絹』に関連する我が地域が誇るふるさと産品と観光資源」を統一テーマとした関係自治体等によるプレゼンテーションは、それぞれの地域や特色を表したものとなり、会場は大いに盛り上がりました。小山市、桐生市、藤岡市、富岡市、熊谷市、秩



自治体プレゼンテーション

父市、八王子市、横浜市、岡谷市、須坂市、駒ヶ根市、足利市（発表順）の各市が、ご当地のきものを着用したり、PRのための動画を用いたり、市内の絹産業遺産・絹関連製品を紹介したりと、様々な趣向を凝らした発表を行うことで、関係者の関心も高まり今後の連携と発展の可能性を感じさせる内容となりました。吉川浩民群馬県副知事による、世界遺産効果を一過性のものにならないための施策についての挨拶、次回イベント開催地である中田富雄岡谷市副市長の挨拶も相まって、盛況の中で会議は終了いたしました。



自治体プレゼンテーション

なお、会議開始前の富岡製糸場見学ツアー、会議終了後のキックオフ交流会、翌日の絹産業遺産群等見学ツアーによって、参加者の交流はさらに深まるプログラムとなりました。

2 「絹のみち広域連携プロジェクト」絹のみちの祭典

(1) 絹のみち大交流展（ブース展示・交流）

絹のみち大交流展（ブース展示・交流）は、平成 27 年 1 月 30 日に岡谷市文化会館カノラホールにおいて開催されました。

祭典は、グランドロビーの階段踊り場におけるオープニングセレモニーで幕を開けました。安藤久佳関東経済産業局長、今井竜五岡谷市長、片倉康行片倉興産株式会社代表取締役社長からの挨拶の後、テープカットが執り行われました。関東経済産業局、片倉興産、岡谷市、秩父市、須坂市、駒ヶ根市、富士吉田市、長野県、関東農政局、北陸信越運輸局の代表者の参列により、広く本プロジェクトの連携についてアピールできるものとなりました。

その後のブース展示では、絹関連事業者等 17 者が、織物、化粧品、研究機関等分

野別に展示を行いました。きものを着用した出展者もいる中、和装のみならず、財布、ストール、ネクタイ、スカーフ、白生地、傘、化粧品等々、様々な製品や素材、研究成果で会場は彩られました。来場された絹関連事業者、自治体、支援機関・団体等の関係者、一般来場者の皆さまが各ブースで出展者の説明を聞いたり、質問をしたり、製品を触ったりと思い思いに交流を深めている姿が見て取れました。また、ブース出展者間でも積極的な交流が見られ、会社訪問の約束を取り付けるなど今後の連携が期待される内容となりました。

加えて、小ホールでは、甘楽富岡地域集落活性化協議会主催による同時開催の関連シンポジウム「新シルクロードへの創造～食・デザイン・観光～」が実施されました。長島孝行東京農業大学農学部教授による基調講演、パネルディスカッション等の内容で、それぞれの地域の特徴を活かし、今あるものをうまく魅せて、わくわくするような仕掛けが必要といった長島教授のお話には、多くの参加者が聞き入っていました。

なお、300 名余の参加者のうち、交流会



オープニングセレモニー



ブース展示会場の全景



雪の中の岡谷蚕糸博物館

にも 74 名が出席し、さらに交流を深める結果となりましたこと、申し添えます。

(2) 岡谷蚕糸博物館見学ツアー、広域連携ネットワーク会議

翌 1 月 31 日の午前中には、岡谷蚕糸博物館見学ツアーが行われました。高林千幸岡谷蚕糸博物館長の説明を聞きながら、74 名の参加者が、創業当時の官営富岡製糸場で稼動し、唯一残されているフランス式繰糸機や、当時の写真などを見学しました。特に参加者の関心が高かったのは、博物館内に存在する株式会社宮坂製糸所の実稼働で、目の前で人の手で行われる製糸の様子を食い入るように見つめる姿が印象的でした。

午後からは、岡谷商工会議所を会場に、広域連携ネットワーク会議が開催されました。121 名の参加者により会場は満席で、熱気溢れる会議となりました。

渡辺豊産業部長、中田富雄岡谷市副市長の挨拶で始まったネットワーク会議は、続いて絹関連事業者等 10 者によるプレゼン



フランス式繰糸機実演

テーションが行われました。各事業者等の製品・技術の強みや今後の取組方針等、自らの取組を伝えつつ他者との連携に向けた発表で、会場内の参加者から様々な関心が向けられました。

専門家プレゼンテーションは、岡田茂樹鶴岡 kibiso プロジェクトプロデューサー、鈴木淳台東デザイナーズビレッジインキューベーションマネージャーから行われました。岡田氏の「自分とパートナーの得意分野を持ち寄って、何を作り、どういうブランドで、こういった消費者に向けて、どんな価格帯で、どんなチャンネルで P R していくかを明確にしておくべきではない」、鈴木氏の「今、脚光を浴びているオープンファクトリーの取組は、業種の垣根を越えて連携してやっている。モノにまつわる思いを P R して、モノに対するファンをつくるのが大切」といった話は、参加者にとって大いに刺激となりました。

最後に、関東経済産業局からの施策説明、大熊章産業部次長からやる気と連携についての強いメッセージがあり、それを受けた



渡辺豊関東経済産業局産業部長

会場の皆さまの盛り上がりをもって会議は終了し、その後の名刺交換会でも積極的な交流が行われました。

「絹のみち広域連携プロジェクト」では、



広域連携ネットワーク会議の様子

今後もイベントを含め様々なプロジェクト展開を進め、やる気のある方々の取組を支援していく予定です。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

新シルク産業の創造に向けて

京都府京丹後市

商工振興課長 高橋 尚義

平成 26 年 4 月、京丹後市は、国の公募に応じて「新シルク産業の創造」などいくつかのテーマを提案いたしました。これらが国の「地域活性化モデルケース」としての選定を受け、市では今後、主だった大学等と連携して養蚕技術の研究開発をはじめ、繭の新たな活用によって、新産業創出と新しいジャパnbrandづくりにつなげていくなど、政府と一体となった取組みの中で、シルク産業の新たな局面を見出していきたいと考えています。

1 地域活性化モデルケース選定の経過

平成 26 年 1 月、政府内に内閣官房長官を議長とする「地域活性化の推進に関する関係閣僚会合」が設置され、この関係閣僚会合において決定された「成長戦略改訂に向けた地域活性化の取組みについて」に基づき、同年 3 月下旬から 4 月中旬にかけて「地域活性化モデルケース」の提案公募が行われました。その後、5 月 29 日に開催された第 3 回閣僚会合において、全国 135 件の提案の中から京丹後市を含む 33 カ所が選定されました。国は、選定した地域活性化モデルケースを、関係府省が税財政面、金融面、規制面等で最大限支援し、民間・

大学等の協力も得て、先進的プロジェクトとして実現するとしています。

京丹後市が、「新シルク産業の創造」をテーマに提案したのは、「丹後ちりめん」に代表される絹織物産業をこの地域で維持し、未来へ継承していくこと。加えて、「絹」を核にした新しい産業を地域に創出して地域経済の活性化を図ること。具体的には、川上分野にあたる「養蚕業」に着目。裾野の広い産業としての発展可能性が高いと認められるため、織物業はもとより、川中分野、さらには川下分野などへ展開が期待できるといえるものです。

2 国へ提案した地域活性化モデルケース「新シルク産業の創造」の概要

京丹後市は、京都府の最北端の丹後半島に位置する人口約 6 万人のまち。ご承知のとおり、「丹後ちりめん」という和装用白生地国内最大産地です。「丹後ちりめん」は、1720 年に創業し、まもなく 300 年を迎えます。かつては年間約 1,000 万反の生産量を誇っていましたが、現在はその規模も大幅に縮小し、最盛期に比べ 5 % 程度の生産量となっている状況にあります。しかしながら現在でも、生糸の国内最大消費地



京丹後市内農家が所有する桑園

であるとともに、絹織物の最大の生産地という状況に変わりはありません。

ところが、原料となる生糸も現在では大半を海外からの供給に依存している状況にあり、原料確保は将来にわたって産業として持続させていく上での大きな課題の一つとなっています。また、国内に目を転じれば、産業構造上の問題もありますが、わが国の養蚕業の実態は個別課題を掲げても、高齢化や後継者難など労働力に関わる課題をはじめ、繭生産にかかる収益力も弱く、養蚕農家数と収繭量共に減少している状況にあり、負のスパイラルが長期化している状況にあります。

そこで川上分野に当たる「養蚕業」に着目した今回の「地域活性化モデルケース」提案は、織物の原料となる繭を生産し国産原料の確保を目指すこととし、同時に、養蚕業に係る労務の軽減と生産コストの低減、さらには、より収益性の高い分野への産業資材としての提供など、産業全体を俯瞰する中で、絹の多彩な機能をそれぞれ最

大限に活かし多様な産業分野での活用について検討・研究を進めることとしています。

このことは、わが国の養蚕業の有りようにも貢献できる取組みとなり得るとともに、養蚕業への新たな付加価値を提供することにもつながるのではと考えています。

3 提案に対する関係省庁からのアドバイスと官邸での意見交換

京丹後市の提案に対して6月10日、内閣府、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省等中央省庁からの出席を得て、京丹後市にて意見交換がなされ、以下のような意見が取りまとめられました。

また、6月24日には、官邸にて開催された第4回関係閣僚会合において、選定33カ所のうちから京丹後市を含む6提案者が参集して報告が行われました。中山泰京丹後市長からは、提案した内容の展望と課題解決へ向けた要請を行い、関係閣僚等との意見交換の中で、国と地方が一体となって今後の地域課題に取り組むことが確認されたところです。



各省庁担当官との総合コンサルティング会議を開催



閣僚会議にて事例報告する中山泰京丹後市長

＜意見交換による国からのコメント概要＞

- ①京丹後市提案の「丹後ちりめん」の再生、養蚕分野の新たな研究開発については、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、和装産業のPR力強化など、ジャパンブランドにつながる事業といえる。
- ②新たなブランドづくりについては、ジャパンブランドの申請があれば和装振興等として検討できる。
- ③大学と一緒にする研究は、必要な案内をする。廃校の利活用、山村振興については補助メニューを活用できる。
- ④新シルク産業の創造については、地域の金融機関を巻き込んでの事業化の段階となれば大規模な支援メニューがある。
- ⑤なお、地域資源を活用したビジネス化の支援方策、人材、若者を呼び込む方策等について地域横断的に議論している。

4 今後の展開

国へ提案・採択された「新シルク産業の創造」に関する今後の動きについて、1つには、京丹後市と包括協定を結んでいる京都工芸繊維大学をはじめ、信州大学繊維学部などの繊維系大学と研究協力関係を構築する中で、大学等研究機関のサテライト機能を京丹後市内に置き、国内産繭の生産性

の向上に向けた実践的研究と、超高品質化など機能性の高い繭の生産に関する研究に取り組むこととしています。このことにより、地場産業の絹織物業に関しては、「量の確保」によって製品の安定生産をめざし、また「質の確保」によって、絹織物生産に適した品質を持つ糸や機能性のある糸を生産することによって、これも最高級の素材

と技術を持つ織物産地として、新たなものづくりを展望し、未来へ継承していくことができるのではと考えています。

また2つ目には、「産」と「学」が連携できる環境を整備するとともに、実用化に実績を持つ民間企業者及び実現化に向け意思のある方々にも広く参加を呼びかけて組織化し、京都府とも連携して産学連携を促進する中で、養蚕業における「収繭量（量）」と「繭の品質と機能（質）」を活かした製品展開とその供給を考えています。このことにより、新たな産業資源としてヘルスケア

産業や医療産業分野等への展開が可能となり、その結果、京丹後市に関連企業や大学・研究機能が集積し、「シルクによるまちづくり・地域活性化」の姿を具現化してまいりたいと考えています。

5 シルクのまちづくりへ

シルクのまちづくり市区町村協議会は平成22年1月に設立され、現在全国26市区町が加盟しています。加盟する群馬県富岡市の富岡製糸場と絹産業遺産群が先般、ユネスコ世界文化遺産に登録されたことに



協議会が発行している全国シルクのまち情報誌

より、かつて絹産業が日本を支えたことを今に伝えるシンボリックな存在として、関係者それぞれが心に刻み、またその心が次世代にもしっかり受け継がれていくことを期待するものです。

平成 32（2020）年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、丹後ちりめんも創業 300 年を迎えます。ユネスコ世界文化遺産登録を機に、さらに関係市

区町村の連携を密にすること。また 6 年後に向けて、川上・川中・川下の国内シルク関連産業が連携して絹の持つ魅力や可能性を再発見しジャパンプランド化など多様な検討を行う中で、それぞれの地域の活性化につながるよう、シルクのまちづくり市区町村協議会としての役割を果たしていかなければならないと考えています。

シルクのまちづくり市区町村協議会（全国 26 市区町で構成：山形県鶴岡市、山形県長井市、山形県白鷹町、福島県川俣町、茨城県結城市、栃木県足利市、栃木県小山市、群馬県富岡市、東京都新宿区、新潟県十日町市、新潟県小千谷市、新潟県南魚沼市、石川県金沢市、山梨県富士吉田市、山梨県西桂町、長野県岡谷市、長野県駒ヶ根市、滋賀県長浜市、京都府京都市、京都府宮津市、京都府京丹後市、京都府与謝野町、愛媛県西予市、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県奄美市、鹿児島県龍郷町）

【事務局】京丹後市商工観光部商工振興課内

■本件に関するお問い合わせ
京都府京丹後市商工振興課
〒 629-3101
京都府京丹後市網野町網野 353-1
TEL：0772-69-0440（直通）
FAX：0772-72-2030

シルク遺産を訪ねて^{②⑩}

石川繊維資料館 — 個人収集の資料館 —

東京産業考古学会

副会長 平井 東 幸

この資料館は、石川絹糸紡績の石川明氏が個人的に収集した資料を公開するため平成 11 年 4 月に開館した。愛知県豊橋市はかつて「蚕都」と呼ばれ、岡谷や前橋などに次ぐ製糸業の一大産地であった。石川氏は父の代から繊維業に携わり、同氏は昭和 37 年に絹糸紡績を始め、今日に至っている。

豊橋の繊維産業が衰退の一途を辿るなかで、「その繁栄の名残をとどめるものを何とか残そう」「繊維の奥深さを後世に語り継ぎたい」と 40 年近く前から収集を開始した由である。

同館は、自宅の隣の民家を買収したもので（写真 1）、鉄骨三階建て面積 135 m²、展示品は約 1,500 件とのことだが、数え方によっては、すなわち、繭のサンプルや錦絵、商標チョップ、シャトル等を一つひとつ数えれば数千点になるだろう。

展示についてみると、1 階には、ガラ紡機、組紐機、整経機、織機等の重量物ないし大型の物が中心で動態保存されている。石川館長自身で機械の調整を行っている。

2 階は、養蚕製糸関係で、野蚕繭の標本を初め、説明パネル、錦絵などが、3 階には、綿や羊毛関係の機械用具、例えば手紡



写真 1 石川繊維資料館の外観

機、糸車など地元で長年使用されたものも含めて所狭しと展示されている。これらは、豊橋や東三河で明治末期から近年まで実際に使用されていたもので、そのほとんどは、機械というよりも道具であり、この地の繊維の歴史を語る貴重な民俗資料である。もっとも、自社で使用していた資料は少なく、ほとんどは骨董商を通じて購入したものである。なお、館名が繊維となっているのは、シルクのみならず、コットンやウールの資料も収集しているからであろう。

主な展示品としては、次のようなものがある。

- ①ガラ紡績機：戦前のもので、極めて珍しい（写真2）。明治6年に長野県安曇郡の臥雲辰致（がうん たつむね）が発明したユニークな機械で動態保存されている。
- ②玉糸座繰器：玉糸は豊橋の特産物であった。玉糸専用の器械は珍しい。平成10年まで地元の老舗・浅井製糸工場が使用していたもの（写真3）。
- ③座繰器：写真4の、左がダルマ式座繰

機（明治時代後期）、右は諏訪式座繰機。

- ④毛羽取り機：繭の毛羽を取る道具、取った繭綿は絹布団綿や絹糸紡績の原料になる（写真5）。銘板には、日の丸号とあり製造発売元は笠井兄弟商会（東京下谷）とある。
- すべて金属製で、従来より生産性が3倍になる由。貴重なものである。

豊橋の養蚕・製糸業を振り返ってみよう。三河と聞くと、とにかく三河木綿に代表される綿産地のイメージが強いが、実は、平安時代から養蚕・生糸の代表的な産地として知られていた。大正・昭和戦前期には愛知県が長野県に次ぐ生産規模となり、しかも同県の生産量の3～4割は豊橋が占めていた。「蚕都」と称された所以であった。

豊橋の大きな特徴は、玉糸製糸が繁栄したこと。周知のように、玉糸とは玉繭（2頭以上の蚕が共同で作った繭）から繰糸した生糸である。往時には玉繭はくず繭扱いで真綿の材料であった。ところが、明治中期に、小淵志ちが玉繭を材料とした玉糸繰



写真2 ガラ紡績機



写真3 玉繭用の座繰器



写真4 ダルマ式座繰器（左）、諏訪式座繰器（右）

糸を考案し、これがその後の発展の礎となったと言われている。技術開発が産業を興す原動力である典型事例である。もっとも、玉糸製糸の最盛期は、大正から昭和初期までであった。第二次大戦中に豊橋も空襲を受けて市街地の7割は焼失、座繰、器械を含めて製糸工場は甚大な被害を受けた。

しかし、玉糸製糸は戦後も根強く存続した。紬調の風合い、質感が好まれて、1950（昭和25）年代の米国でのシャントンの大流行がこれに大きく貢献した。その後、業況は次第に先細りとなり、平成10年には戦前からの企業である浅井製糸、大林製糸、高橋製糸の廃業によって消滅した。

また、絹糸紡績は戦後すぐ、絹ガラ紡より始まり、豊橋は全国屈指の産地となった。1980（昭和55）年代初期には全国でおおよそ12社を数えたが、うち、10社は豊橋で



写真5 毛羽取り機

あった。

石川繊維資料館の石川館長は、石川絹糸紡績を経営、現在も絹糸紡績を手掛けている。昭和60年頃の最盛期には従業員25名を雇用していた。当時比べると規模は大きく縮小したが、現在も400錘たて紡績機5台で、「手張り」で続けている。原料は中国からの輸入品、製品は、スラブ、ネップの機械紬糸で、全国の糸商に販売している。現在、絹糸紡績は国内ではわずか2社のみであるという。それだけに同社の事業はまことに貴重である。

最後に、取材しての感想と希望であるが、個人でよくこのように多種多様の古い資料を収集されたものと感心した。なかには、例えばガラ紡績機械を初め貴重なものが少なくないので、この際専門家が調査して、市の民俗有形文化財等への指定を是非検討して頂きたい。そしてこの施設を、学校教育、生涯教育、さらには観光資源として一層活用して頂きたいと思います。

なお、市内には、豊橋市美術博物館の附属施設の民俗資料収蔵室があり、ここにも養蚕用具、製糸器械が一部展示されている。旧小学校校舎を利用したもの。開館日時等は同館（0532-51-2882）に問い合わせください。

最後に、この取材で、インタビューにも快く応じてくださり、各種資料の提供も頂いた石川明氏に感謝致します。

（写真は筆者撮影）

■名称：石川繊維資料館（ホームページあり）

■入館料：無料

■開館日時：金曜、土曜、日曜

9時～17時

■問合せ先：見学希望者は事前に電話予約下さい。平日でも見学可能ですが、解説は金、土、日に限ります。

■所在地：〒440-0866

愛知県豊橋市東小田原町 109-1

Tel :0532-52-5265、Fax: 0532-48-7886

E-mail:silk@mx1.tees.ne.jp

■アクセス：豊橋駅下車、徒歩約7分

冬の桑畑と桑の剪定

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

冬の桑畑は人気も無く、閑散としていている。黒沢明監督の傑作「用心棒」(1961)を観た方は多いと思うが、冒頭のシーンを覚えておいでだろうか。三船敏郎が閑散とした冬の桑畑の中を彷徨う（さまよう）シーンから始まっている。江戸末期の上州でヤクザの抗争の宿場が舞台であり、その周り是一片の桑畑である（ロケ地は群馬県ではなく山梨県だったらしい）。冬の桑樹は落葉しており、地面から30 cm位の株から条（枝）が無数にまっすぐ伸びているだけである。名前を問われた三船敏郎は一片の桑畑を眺めながら「俺か、俺の名前は、、、桑畑三十郎、、、もうすぐ四十郎だが」と名乗っている（「用心棒」は「椿三十郎」の前作にあたる）。

暖冬となった現在でも冬の桑畑には桑葉がない。初冬に霜が降りると桑葉は一気に黒くなって落葉する。桑葉もなく、蚕は卵で休眠（越冬）しているので、養蚕農家は蚕の飼育をすることは無い（蚕を孵化させ人工飼料で飼育することもできるが、人工飼料代は高く、全齢飼育は今の養蚕業としての繭生産には向かない）。冬の間、養蚕農家の仕事といえば、桑畑の管理である。

夏以降の飼育のために、条を剪定する「春切り」（別名：彼岸切り）を行う。前年に伸びた条の根本からばっさりと伐採する。冬に剪定しなかった桑樹は春の飼育に使う。春の飼育後、使った条を「春切り」と同じように根本から剪定するのが「夏切り」である。このように桑畑の桑樹は年に1回剪定されている。図1、2は農工大の桑畑での「春切り」と「夏切り」の作業風景である。蚕学研究室内の教員2名、技術職員1名と年によって異なるが7、8名の学生で自分たちの桑畑（約3千本）を管理している。条を根元から伐採して、丸坊主にする枯れないか毎回心配になる。しかし、桑樹は丈夫なもので「春切り」した桑は4月中旬芽吹きの際に新しい条が伸びてくる。気温が上がるにしたがって1日1 cm位のペースでスクスクと育っていき、秋には2 m位の高さになる。

桑樹を剪定しないとどうなるか？

大木になっていく。図1、2は20年前に造成した桑畑で、「春切り」と「夏切り」を毎年しているので桑樹は人の背丈ほどこしか伸びていない。図3は20年前に桑畑を



図1 春切り

造る際、余った桑苗を敷地の隅に植えて、そのまま放置した桑樹である（最近、流石（さすが）に高くなりすぎて先端部を切り落とした）。幹の太さは周囲約 150 cm もある。桑畑のものは同約 30 cm で、同じ時に植えた桑樹であるが、放置した桑樹の幹は畑のものに比べて圧倒的に太くなっている。桑樹を「春切り」と「夏切り」と繰り返して剪定すると使い勝手は良いが、やはり桑樹の成長には良くない。いくら桑樹が丈夫だとは言え、剪定を行っていると折角生やした葉や枝を毎年失っているので樹勢



図2 夏切り

は衰えていき、だいたい 20 ～ 30 年で改植が必要となってしまう。現在使っている桑畑もそろそろ改植を考える時期にきている。図 4 はブラジルの桑畑であるが、根本から大きな芝刈り機のような収穫機で桑を収穫している。このような収穫方法ではさらに桑樹の寿命は短く、10 年ほどで改植しているそうである。しかし、挿し木で増える桑品種を使っているので改植の手間はそれほどないとのこと。ちなみに現在の日本の桑苗はほぼすべてが接ぎ木で作られている。



図3 20 年前に植えた剪定していない桑樹とその幹



図4 ブラジルの桑畑

剪定が行われる以前は「立通し」と言われる仕立て方が行われてきた。桑樹を剪定することなく、図5の浮世絵のように大木になった桑樹を用いていた。踏み台や梯子（はしご）を使って桑葉を収穫し、太い枝は切らずに残してある。大正末期まではこ



図5 浮世絵に描かれた桑摘みの風景

のような桑樹の桑畑が多く残っていたそうであるが（図6、図7）、昭和期になると葉のついた条ごと蚕に与える「条桑育（じょうそういく）」が普及して「立通し」の桑畑は日本からほとんど姿を消した。



図6 立通しの桑畑



図7 立通しの桑からの摘桑（熊谷元一氏撮影）

資料：株式会社岩波書店
『かいこの村：岩波写真文庫 84（1953）』による。

桑葉をこつこつ摘んでいるより、葉のついた条ごと収穫し、給桑した方が当然効率は良い。「条桑育」では繭質が若干悪くなるが、飼育効率が良い分大量に飼育が可能のため普及し、前述の「用心棒」が製作された昭和三十年代に年間条桑育が確立した。桑の収穫が「桑葉」を摘む作業から「太い条」を鎌や鋏で伐採する力仕事になって、担い手も女性から男性へと変わっていった。

外国では

まだ「立通し」のような桑樹が使われている。ウズベキスタンは繭生産が2万tと世界第4位の養蚕の盛んな国だが、剪定されていない桑樹も用いている。桑畑も造成されているが、自生している桑や桑並木の桑葉も利用されている(図8)。



図8 ウズベキスタンでの桑摘み風景

桑の剪定はいつから行わるようになったか

江戸時代末期に上州(群馬県)で始まった。「根切り」という仕立てで、現在の「根切り」の剪定とは異なり、地面すれすれで剪定していた。繭生産の増大が望まれ、新たに桑畑を作った際、桑苗を植えてから早く収穫できるように剪定されていたら

しい。このような桑樹を剪定する栽培法は徐々に広まっていき、試行錯誤の末、現在のような「春切り」や「夏切り」のような桑の剪定方法が確立されたのは、前述したように昭和三十年代である。

話を冒頭に戻して、「用心棒」の桑畑は昭和期の条桑育用のもので、江戸時代の桑の仕立て方とは違っている。完璧主義とも呼ばれる黒澤監督は、妥協を許さない厳しい演出で知られているが、流石(さすが)に江戸時代の桑畑までは再現しなかった、またはご存じなかったようである。もっとも図6のような「立通し」の桑畑を観ても誰も桑畑とは思わないだろうし、「立通し」の桑畑を彷徨う三船敏郎ではちょっと格好がつかないだろう。

■横山 岳(ヨコヤマ タケシ)のプロフィール
東京農工大学農学部
生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509: 東京都府中市幸町3-5-8
TEL: 042-367-5681
E-mail: ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
HP: <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko/>

【No.40(2015.1)号の記事訂正】

前号(2015.1)P.29の右段下から7行目
誤: 一度爲殻。

正: 一度爲鼓。

カイコの卵ができるまで ～蚕種製造の現場から～

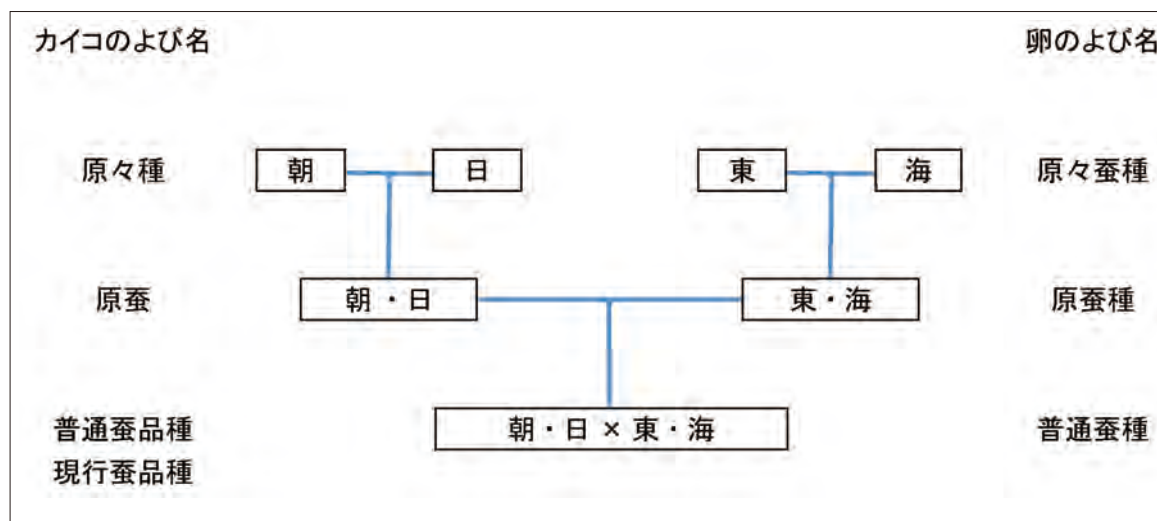
一般財団法人大日本蚕糸会蚕業技術研究所
研究員 池嶋 智美

純国産の絹の原料となるのは？そう、純国産のカイコが作る繭です。カイコは卵から孵化し、幼虫が桑の葉を食べて成長し、糸を吐き、繭を作ります。では、このカイコの卵はどのようにして作られているのでしょうか？

カイコの卵は「蚕種」といい、ここ茨城県稲敷郡阿見町にある蚕業技術研究所では、蚕種の製造を行っています。それでは、研究所で製造している蚕品種「朝・日×東・海」の卵を例に、カイコの卵の製造工程をご紹介します。

蚕種は、大きくは「原々蚕種」「原蚕種」「普通蚕種」の3つに分類されます。農家などで飼育されている「朝・日×東・海」などのカイコは「普通蚕品種」と呼ばれ、その卵は「普通蚕種」です。普通蚕種の元となる「朝・日」や「東・海」などは「原蚕種」、原蚕種の元となる「朝」「日」「東」「海」は「原々蚕種」です。

多くの品種は1年に1回飼育して採種し、休眠卵を得ることで継代します。普通蚕種の製造には、図のような交配を行う必要があるため、卵が出来上がるまでにはおよそ2年くらいかかります。



蚕品種「朝・日×東・海」ができるまでの交配形式

原々蚕種の飼育

普通蚕種「朝・日×東・海」を作るためには、まず大もとの品種である原々蚕種「朝」「日」「東」「海」を飼育することからスタートします。通常、生まれて間もない1、2 齢は人工飼料で飼育し、3 齢以降は桑葉をたくさん与えて飼育します。良い繭を得るためにはカイコを丈夫に育てる必要がありますので、温度や湿度、衛生管理には十分な注意を払います。



幼虫の飼育

上：人工飼料による飼育 下：桑葉による飼育

飼育開始から 25 日間くらいでカイコは糸を吐き始めます。私達は山形族（やまがたまぶし・百年族）に入れて繭を作らせて

います。1 週間くらいすると繭の収穫です。「大きさ」「重さ」「形」「糸の長さ」などを調べ、品種本来の性質がきちんと維持されていることを確認します。そこから、さらに「形状の良さ」「感触（固さ）」などをチェックし、採種に用いる繭を厳選します。カイコの雌、雄は繭の外見からは分かりませんので、繭の先を切開して蛹を取り出し、その尾部の形を見て雌か雄かを判別しています。蛹から蛾になる前にたくさんの繭の雌雄を調べるためには、熟練の技術が必要とします。（中には、卵の色、幼虫の斑紋、繭の色で雌雄が分かる品種もあります。「東」と「海」は幼虫の斑紋でも雌雄を見分けられます。便利ですね！）



繭の雌雄鑑別

原蚕種の製造

さて今度は「原蚕種」を作ります。原蚕種「朝・日」を作るには、原々蚕種「朝」と「日」とを交配します。「東・海」は「東」と「海」を交配して作ります。

卵を産ませるために、雌と雄の蛹を別々の容器に入れて管理し、発蛾したら交尾させます。3 時間ほど交尾させた雌は、約

500粒ほどの卵を台紙に産み付けます。大抵は朝に発蛾するため、産卵は夕方から翌朝にかけて行われます。



蛾の交配

産卵を終えた雌は、母親を介して子に伝播する微粒子病（蚕の病気）の検査をするため回収されます。検査に通らなかった雌の産んだ卵は、微粒子病にかかっている可能性が高いため廃棄されます。いわばエリート中のエリートの雌が産んだ卵だけが、「原蚕種」になれるのです。

台紙に産み付けられた卵は、蚕種庫（蚕種を保管する専用の部屋）に入れられ、しばらくの間 25℃で保護します。10月以降は自然の室温に置き、徐々に温度を下げていきます。11月下旬から12月上旬に消毒をし、卵や台紙に付いたゴミや蛾尿などの汚れは刷毛を使って水洗いします。その後は5℃の冷蔵庫に入れ、孵化させたい時期に応じて、さらに低い温度に置く場合もあります。このように適切な温度で保護した「朝・日」「東・海」の卵は、次の年に冷蔵庫から出して、10～15℃の中間温度を経て25℃に置くことにより、約2週間で孵化します。

普通蚕種の製造

こうして孵化した「朝・日」と「東・海」をさらに交配し、蚕品種「朝・日×東・海」の卵を作ります。この時も母親の微粒子病の検査を行い、再度、安全な卵であることを確認します。



台紙に産み付けられた卵

左：原蚕種 「朝・日」

右：普通蚕種 「朝・日×東・海」

普通蚕種の多くは、クラフト紙に糊を塗った台紙の上で産卵させます。これは後で台紙を水に漬けて糊を溶かし、卵を台紙からはがすためです。卵は1粒ずつばらばらにした「散種（ばらだね）」という状態にして管理するのです。ばらばらになった卵は、塩水に入れば死卵や不受精卵を分離することができますし、卵の表面を消毒することもできます。また、2,000、15,000、28,000粒といったさまざまな量の注文に対応しやすいという理由もあります。

散種にする作業は、12月頃の寒い時期に行います。台紙を専用の台の上に置き、水を流しながら掌を使ってバットの中に卵を洗い落とします（卵の温度が上がってしまうので、お湯は使えません！）。湿った卵は乾燥させて重さを測定し、冷蔵庫に入

れて保護します。



散種の洗い落とし

散種の一部はサンプリングし、粒の数と重さを調べます。これによって重さから粒数を計算することができるようになります。また、サンプルの卵がきちんと孵化するかどうかまで調べます。散種は依頼を受

けて製造する場合が多いので、品質が一定以上に保たれていることを確認することはとても重要です。卵のコンディションは作柄や繭糸質にも影響をおよぼす重要な要素の一つですので、蚕種製造の現場では冷蔵庫に入れた後も厳重に管理し、より良い状態で卵を提供できるよう、常に大切に取り扱うことを心がけています。

お待たせいたしました。これで、ようやく普通蚕品種「朝・日×東・海」の卵の出来上がりです。このようにして作製された卵は、何度も検査をくり抜けた、超エリートの卵です。出荷の準備が整った卵は、掃き立てに向けて冷蔵庫から出されるその日を心待ちにしていることでしょう。

■ 一般財団法人日本蚕糸会蚕業技術研究所の紹介

● 研究業務の内容

- ① 特徴ある蚕品種の開発
- ② 養蚕新技術の開発
- ③ 蚕種製造及び普通蚕種の配布
- ④ 研修及び技術相談
- ⑤ 桑園の管理業務

〒 300-0324 茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053

TEL: 029-889-1771

Fax: 029-889-2356

E-mail: inayoshi@silk.or.jp

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/g_map.html



二瓶博さんへの弔辞

一般財団法人大日本蚕糸会顧問二瓶博さんは、平成 26 年 12 月 14 日に逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。ここに、一般財団法人大日本蚕糸会吉國隆顧問の弔辞と高木賢会頭の思い出の文章を掲載致します。



故 二瓶博さん

弔 辞

千年を超える歴史を持つ当麻布山善福寺名物の逆さ大銀杏の黄葉も盛んに散り始めた本日、私どもの尊敬する二瓶博先輩にお別れの言葉を申し上げなければならなくなり、深い悲しみに包まれております。

ここしばらく脚の方に問題を抱えておられたものの元気にお過ごしと伺っていただけに、突然の訃報に、思わず耳を疑ったところであり、蚕糸絹業を含め農林水産行政全般に類稀な功績を残された偉大な先達を失ってしまったことに対して言葉にならない痛惜の念を覚えた次第であります。

二瓶先輩は、阿武隈川の清流に洗われる宮城県南部の丸森町に生を受けられ、養蚕も盛んな山紫水明の地に育たれた後、仙台や東京で学業を終えられて、戦後の混乱からまだ脱しきれない昭和 24 年に農林省に奉職され、爾来食糧行政、農蚕園芸行政などをはじめ幅広い分野でご活躍になりました。

農蚕園芸局長をお務めになって昭和 56 年に退官された後は、蚕糸業とも縁の深い蚕糸砂糖類価格安定事業団理事長をはじめ、全国中央市場青果卸売協会会長、農民教育協会理事長などを歴任され、平成 6 年から日本絹業協会会長を、また、同 7 年から大日本蚕糸会の理事及び会頭を多年にわたって務められて、蚕糸業を巡る事情が困難を増す中で時代に合った蚕糸業の新しい道を探ることに心を砕かれたことは、我々蚕糸業界に縁のある者の脳裏に強く刻まれているところであります。

私が最初に二瓶先輩の身近で仕事をさせて頂いたのは、農蚕園芸局長を務めておられた昭

和 53 年に、米の生産調整と水田利用の再編を図る対策の実施のために設けられていた対策室の室長を拝命した時でありました。当時は、いわゆるコメの第二次過剰の中で、生産調整の目標数量を毎年積み増し改訂せざるを得ない状況でありましたが、農業界、地方公共団体、政界から強い反発のある中で、二瓶局長の粘り強いまた確固たる信念を貫かれた陣頭指揮により、次々と課題を達成され、特に昭和 55 年には、東北地方をはじめとする全国的な未曾有の大冷害の中で与党から「謹慎」を申し渡されるという逆境にも屈せず、各方面の説得に卓抜な手腕を発揮され、生産調整目標数量の大幅な上方改訂を含む水田利用再編第二期対策への移行に漕ぎつけられた力量は驚嘆に値するものでありました。

二瓶先輩の仕事ぶりは、関係者や部下の話によく耳を傾けつつ情勢の冷静かつ的確な把握に努められ、深い洞察力と進取の気性をもって果敢に対応を決断され、いったん決断されると梃子でも動かない勇気と粘り腰で必ず目的を達成されるまでやまないというものでありました。

そのような仕事ぶりの一つの典型的な例が、蚕糸業関係者には忘れることのできない大事件であった昭和 56 年の基準糸価の史上初の引下げ問題であったと言えるであろう。

当時は、生糸の内外価格差による輸入圧力の増大、国産糸の需給アンバランスによる事業団在庫の増大などで、繭糸価格安定制度の維持すら危ぶまれる状況が生まれておりましたが、農産物支持価格を引き下げるといのはほとんど例を見ず、諸方面の抵抗も尋常でなかった中で、二瓶局長は基準糸価の引下げという荒療治によって繭糸価格安定制度の根幹を守るという決断をされ、世に「四十日抗争」と称される政界を巻き込んだ対立を見事に乗り切られ、果敢に目的を達成されたのでありました。

このような信念を貫く仕事の進めぶりは、環境庁の水質保全局長時代に産業界の抵抗を押し切りながら時代の要請を先取りして実現された画期的な瀬戸内海水質保全法の制定の場面でも見られましたし、食糧庁需給課長時代にもちあがった自主流通米制度の創設問題を巡っては、コメの流通業界のありかたの洞察に基づいて当時の桧垣徳太郎食糧庁長官と激論を交わされた場面でもいかに発揮されました。農林水産省内において、口の悪い先輩の誰かが、二瓶先輩を愛嬌たっぷりのある動物に例え、これが二瓶先輩のトレードマークとして定着していったのは、こうした出来事を経てのことであつたと思われます。

このような正に勇者の名に相応しい仕事ぶりでありながら、周囲には優しい気配りをしながら接しられるのが常であり、部下に対して声を荒げられる姿はついぞ目にしたことがありません。どんな困難な状況下でも、茶目っ気にあふれた語り口で周りを和ませながら議論を進められるお姿は、心の余裕を感じさせ、いつも感服させられたものでした。

蚕糸業を巡る事情がますます厳しさを増していった中で務められた蚕糸砂糖類価格安定事業団時代や大日本蚕糸会時代には、蚕糸業の活路を切り開くための試みとしてハイブリッド

シルクの開発や回転式の大規模養蚕機械の開発などに熱情を傾けられて、その後のいろいろな取り組みに先鞭をつけられ、終始一貫蚕糸絹業へのたゆみない熱情をもって尽力されたことは、関係者のあまねく知るところであります。

さらに、二瓶先輩は、奥さんともども、大のきものファンであり、つとに京都の織物業界や着物業界の人々との交わりを大切にされ、社団法人全日本きもの振興会の役員として全日本きものの女王コンテストの審査員を長年務められるなど、絹の需要拡大とあわせて川上川下の連携の基礎を作ることに尽力されました。その遺産は後任の会頭職として私も引き継がせていただいたほか、さらに現高木会頭の指揮の下で進められている蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の基礎としても脈脈として受けつがれていると言えるであります。

二瓶先輩本当に有難うございました。先輩の偉大なご業績を偲ぶには、丹念なメモをもとに節目ごとに記された数々の御著書を紐解くしか今やなくなりました。これからも天上から我々後輩をお導き頂き、困難な状況に直面している蚕糸業のみならず農林水産業の諸課題の克服のための知恵を授かりたい心境であります。

晩年には奥様とクルーズなどの海外旅行を楽しまれ、ご夫妻で参加していただいていた蚕糸会館談話室などでそのお話をきかせていただいて羨ましく思ったりしたものでしたが、突然に先輩を失われた奥様やご家族のご悲嘆はいかばかりであったかと察されます。どうか、彼岸から最愛のご家族のことも見守っていただけるようお祈り申し上げます。

つたない言葉でしたが、これをもってお別れの言葉とさせていただきます。密度の濃い生涯を駆け抜けて来られた二瓶先輩、どうか安らかにお休みください。

平成 26 年 12 月 17 日

一般財団法人大日本蚕糸会 顧問 吉國 隆

二瓶さんの思い出

一般財団法人大日本蚕糸会

会頭 高木 賢

吉國さんが弔辞で述べられているように、二瓶さんは、他の分野での活躍もすごいものがあります。しかし、私にとっての二瓶さんとの出会いは、もっぱら蚕糸を介してでした。甚だ個人的な思い出ながら、今なお強く記憶に残っていることを申し述べたいと思います。

もっとも強烈だったのは、昭和 59 年 2 月、私が繭糸課長に就任したとき、事業団主催の就任祝いの会が都内某所で開かれたときのことです。その席上事業団理事長である二瓶さんが突然声を張り上げ、「小島局長は価格引き下げをやらん。そんな局長のいうことは聞かないで、高木課長は俺の言うことを聞け」と言われたのです。哑然としました。事前情報がなかったのですが、局長と事業団理事長が蚕糸政策をめぐる激しく対立していたのです。「はいそうします」とも「いいやそういうわけにはいきません」とも言えず、困り果てたものでした。その数日後、二瓶さんから「これを読んで勉強しておけ」と渡されたのが、昭和 56 年の基準糸価引き下げをめぐるいわゆる自民党との「40 日抗争」の経過を克明に記録した幻の著書でした。結局、両者の蚕糸政策上の対立は、二瓶さんの主張が通り、価格引下げ路線が農林水産省の方針になりました。価格引下げに至るまでの経過は省きますが、この二瓶さんの著書は大変ありがたいものでした。価格引き下げの際のあれこれの動きが事細かに記述されていたからです。自民党の先生方がどのようなビヘイビアをとるのがよくわかり、対応策を考えるうえで実に役に立ちました。価格引き下げが成って、二瓶さんからお褒めの言葉をいただき大変嬉しかったことを記憶しています。

二瓶さんとの思い出はそれ以前にもありました。昭和 55 年、生糸検査所と農林規格検査所が統合されることになり、私は組織担当の文書課課長補佐として、そのための農林水産省設置法の改正に取り組みました。統合される生糸検査所を所管する農蚕園芸局長が二瓶さんでした。二瓶さんは、生糸検査所の職員に対して、統合せざるを得ない事情を直接説明するなど組織の長としての職責を果たし、また野党議員に対する根回しに尽力されました。参議院で成立した際、御礼ということで、内閣委員会所属の与党理事 2 人と二瓶さんと私とで麻雀をやることになりました。ところが、二瓶さんは麻雀があまりお得意でなかったようで、負けが込んできました。しかし、神風が吹きました。当時は大平内閣でしたが、福田派が反発して本会議を欠席し、野党の提出した不信任案が成立してしまったのでした。衆議院解散ということになり、その第一報が麻雀の場にもたらされました。そうなると議員さんはまことに機敏で、こうしてはいられないと直ちに麻雀の方も解散となり、二瓶さんは債務を免れ

たのでした。

事業団理事長ののち若干の時間をおいて大日本蚕糸会会頭に就任されましたが、平成 11 年のあるとき、会頭を辞める決意をしたから後任を推薦せよと当時官房長であった私のところにお見えになりました。役所側から言い出すのを待たず、自ら進退を決する潔い態度に感銘を受けたものでした。

二瓶さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。合掌。

■ 故二瓶博さんの年譜

昭和 24 年 3 月 東京大学法学部政治学科卒業

同 24 年 4 月 農林省入省、三重県農政課長、東北農政局構造改善部長、
食糧庁食品経済課長、需給課長、蚕糸園芸局総務課長、農林経済局総務課長、
大臣官房総務課長、大臣官房審議官兼蚕糸園芸局、食糧庁総務部長

同 51 年 11 月 環境庁水質保全局長

同 53 年 8 月 農蚕園芸局長

同 58 年 6 月 蚕糸砂糖類価格安定事業団理事長

平成 元年 5 月 (社) 全国中央市場青果卸売協会会長

同 3 年 7 月 (財) 農民教育協会理事長

同 6 年 6 月 (社) 日本絹業協会会長

同 9 年 4 月 (財) 大日本蚕糸会会頭理事

同 9 年 9 月 中央蚕糸協会会長

同 12 年 6 月 (財) 大日本蚕糸会顧問

平成 7 年 11 月 勲三等旭日中綬賞

同 16 年 11 月 蚕糸功労者表彰 恩賜賞

同 27 年 1 月 叙位 (従四位)

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日 (期間)	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	(田中種) 出展者は大阪の田中種株式会社で和装の企画問屋。群馬県産の繭を碓氷製糸で繰糸した生糸を使用し、丹後、長浜で紋意匠縮緬、一越ちりめんを製織し、極型小紋、加賀友禅などの技法で染色した着尺、帯。綾の手紬の緋の技法を用いた着尺。おやすみ靴下をはじめとした健康志向ニットで製品の展示。	<会期> 平成27年3月2日(月) ～13日(木) <開催時間> 10:00～18:00	<主催> ジャパンシルクセンター <会場> ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館1階 TEL: 03-3215-1212 FAX: 03-3214-1700 (土、日、祝日は休館日)
	(近江真綿振興会) 出展者は滋賀の近江真綿振興会で真綿ふとんのメーカー。愛媛県産の良質の繭から中綿は角真綿を作り1枚1枚丹精込め手引きをして純国産の近江真綿布団を製作、側地は松澤製糸所で繰糸し加賀グンゼで羽二重を製織。 布団、膝掛け、半纏(はんでん)などを展示。	<会期> 平成27年4月1日(水) ～24日(金) <開催時間> 10:00～18:00	
	(柵屋高尾) 出展者は京都西陣の株式会社柵屋高尾で帯、きものの織物製造販売。 「見て心喜び、触れて心躍り、着て心華やぐ」作品。正倉院に現存する平絹を模した袋帯。植物染料で染色した究極の織物。	<会期> 平成27年5月11日 (月)～29日(金) <開催時間> 10:00～18:00	
富岡製糸場見学者の動向と日本の蚕糸絹文化研究発表会	富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録されたことを機に、富岡製糸場や関連する産業遺産の今後の保存・活用の方や群馬の観光動向、群馬県を主体とした日本の養蚕・製糸・絹産業を再認識して、いかに地域に貢献するかの研究発表会の開催。	<日時> 平成27年3月18日 (水)13:00～15:50 <会場> 高崎経済大学1号館 132教室	<主催> 高崎経済大学経済学部大島登志彦研究室 〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300 TEL: 027-344-7512 FAX: 027-343-4840 E-mail: oshima@tcue.ac.jp 参加申込は、FAX または電子メールで3月12日(木)まで。

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
第31回企画展 「ちりめん創作人形展 ～絹にあそぶ～」	ちりめんを使った人形を制作し、活躍している作家・竹本京氏（高崎市在住）の作品を中心とした展示会。人形の肌にはちりめんを使い、髪の毛には絹糸を、衣装には明治～大正時代の着物の裂（きれ）を使い制作した、まさに「絹づくし」の人形です。	<日時> 平成27年2月15日（日）～4月6日（月） 9：30～17：00 休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL：027-360-6300
第32回企画展 「京都一芸舞妓の衣装展」	古都京都の象徴として描かれる芸舞妓の衣装を京都五花街の年中行事とともに、簪（かんざし）などの伝統工芸品や舞台衣装、映像などで京都に色濃く残る日本伝統のきもの文化の展示を通じて、絹の魅力を感じ日本のきもの文化への理解を深めてもらう。	<開催日> 平成27年4月11日（土）～5月25日（月） 休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <共催> 京都伝統伎芸振興財団、西陣織会館 <お問合せ> 同上
TOKITA COLLECTION 展	アンティークストッキング収集研究家 鶴田章（ときたあきら）氏が30年間かけて収集した TOKITA COLLECTION の中からテーマ別展示とその歴史解説の講演を毎回行い、平成26年12月より約1年をかけてリレー展示。 第2回「シルクストッキングのメインカラー「白の世界」ー職人技が光る透かし柄と刺繍ー」 第3回「合成染料の発明でシルクストッキングがカラフルにーカラーストッキングと多色刺繍の出現ー」	<開催日> 会期： 第2回：平成27年2月1日（日）～3月29日（日） 第3回：平成27年4月～5月 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、午前9時～午後4時30分まで（入館は4時まで）	<主催> シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL：045-641-0841 <お問合せ> 同上
企画展「富岡製糸場を今に伝える片倉家」	岡谷蚕糸博物館が片倉家から寄託され収蔵する富岡製糸場と片倉組の史料をそれぞれ14点、8,330点あり、岡谷蚕糸博物館の収蔵品の多くを占めている。その中から富岡製糸場の史料と片倉家の偉業を伝える史料の展示。	<開催日> 平成27年1月15日（木）～4月21日（火） 9：00～17：00 休館日：水曜日、祝日の翌日	<主催> 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8 TEL：0266-23-3489 <お問合せ> 同上
第25回内外シルク研究会	内外における蚕糸絹業に関する調査研究、事業活動についての講演会を開催。 ①「シルク遺産を訪ねて～その保存と活用～」平井東幸（ひらいとうこう）氏 ②「伊予糸の今と昔」亀崎壽治（かめざきとしはる）氏	<開催日時> 平成27年3月6日（金）13：30～ <開場> 蚕糸会館6階第1会議室	<主催> 内外シルク研究会（中央蚕糸協会） 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階 TEL：03-3214-5777

年月日	活 動 内 容 等
27.1.9	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る製糸業者との打合せ（群馬県）
27.1.13 ~ 27.1.14	山形県養蚕農家全体研修会への参加（山形県）
27.1.19	群馬県休止養蚕農家等の実態調査中間報告会（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.1.21 ~ 27.1.27	京都高島屋「純国産宝絹展」（京都市下京区）
27.1.30	純国産絹マーク審査委員会（H 26 - 第 5 次）（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.1.30 ~ 27.1.31	「絹のみちの祭典」への参加（長野県岡谷市）
27.2.2 ~ 27.2.3	群馬県内養蚕者情報交換会への参加（群馬県）
27.2.2 ~ 27.2.6	純国産宝絹試作品展（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.2.5	福島県養蚕セミナーへの参加（福島県）
27.2.12 ~ 27.2.13	茨城県養蚕研修会への参加（茨城県）
27.2.13	多様な繭生産推進等会議（東京都有楽町 糖業会館）
27.2.27	J A おやま養蚕活性化研修会への参加（栃木県）

平成 26 年度第 5 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 26 年度第 5 次審査会を平成 27 年 1 月 30 日（金）に開催しました。今回は、9 者から申請があり、新規申請者が 2 者 3 品目、使用許諾されている者の 7 者が履歴の追加 3 品目、数量の追加 13 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、9 者に対し、2 月 6 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) 丸本岩崎 代表者名：岩崎義則 (担当者：岩崎慶介) 〒041-0824 北海道函館市 西桔梗町 589-56 TEL：0138-49-4151 表示者登録番号 203	裏地（胴裏絹）	225 枚	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有) 長島織物 精練加工 五泉精練（株）
(新規) (株) 緒方商店 (きものの心おがた) 代表者名：緒方健太郎 (担当者：緒方健太郎) 〒796-0037 愛媛県八幡浜市 1179-2 TEL：0894-24-4141 表示者登録番号 204	後染反物 (変一越・小紋)	10 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん（株） 染 色 高田勝（株）
	後染反物 (紋意匠・小紋)	5 反	制作企画 田中種（株） 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芝井（株） 染 色 高田勝（株）
(履歴・数量の追加) 田中種（株） 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒541-0054 大阪府中央区南本町 2-1-8 創建本町ビル 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	(履歴の追加) ニット（手袋）	300 双	繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 昭和撚糸工業（株） 製編・縫製 (株) 今川
	(数量の追加) ニット（手袋）	300 双	繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 昭和撚糸工業（株） 製編・縫製 神戸生絲（株）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：土井芳文) 〒370-0006 群馬県高崎市問屋町 3丁目5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地（胴裏絹）	760 枚	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	絹小沢（株） JA おやま管内養蚕農家 碓氷製糸農協 坪金工業（株） (有) 江島屋染工場
(数量の追加) (株) 鶴屋百貨店 代表者名：久我彰登 (担当者：平川秀夫) 〒860-8586 熊本県熊本市中央区 手取本町6番1号 TEL：096-327-3660 表示者登録番号 116	裏地（胴裏絹）	230 枚	制作企画 繭生産 製 糸 製 織 精練加工	日本蚕糸絹業開発（協） 熊本県内養蚕農家 碓氷製糸農協 (有) 長島織物 (有) 江島屋染工場
(数量・履歴の追加) (株) 伊と幸 代表者名：伊藤公一 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都府京都市中京区 龍池町448-2 TEL：075-256-2818 表示者登録番号 035	(製品の追加) 白生地 (紋意匠・色無地)	60 反	蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	松岡姫・上州絹星 JA みちのく安達・JA 前橋市 管内養蚕農家 松岡（株）・碓氷製糸農協 羽質織物
	(数量の追加) 白生地 (紹無地・色無地)	50 反	蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	松岡姫 JA みちのく安達管内養蚕農家 松岡（株） 江口機業（株）
	(履歴の追加) ブラックフォーマル地	30 着	制作企画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織 染 色	(株) 東京ソワール 松岡姫 JA みちのく安達管内養蚕農家 松岡（株） 小熊機業（有） 丸屋染工（株）
	(数量の追加) 白生地 (紋意匠・小紋)	20 反	制作企画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	永見（株） 松岡姫 JA みちのく安達管内養蚕農家 松岡（株） 羽質織物
	(数量の追加) 白生地 (紋意匠・訪問着)	20 反	制作企画 蚕品種 繭生産 製 糸 製 織	永見（株） 松岡姫 JA みちのく安達管内養蚕農家 松岡（株） 羽質織物

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(数量の追加) 長島繊維(株) 代表者名: 長島 誠 (担当者: 長島 誠) 〒326-0802 栃木県足利市旭町 852 TEL: 0284-41-7381 表示者登録番号 122	後染反物 (紋意匠縞・小紋) 後染反物 (紋唐織・小紋)	10 反 13 反	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	錦秋×鐘和 東京都多摩地区養蚕農家 碓氷製糸農協 河芳織物(有) 自社
(数量の追加) (株) 甲斐絹座 代表者名: 前田市郎 (担当者: 前田市郎) 〒403-0004 山梨県富士吉田市 下吉田 2-25-24 TEL: 0555-23-2280 表示者登録番号 149	ストール ストール スカーフ スカーフ	1,000 枚 1,000 枚 1,500 枚 1,000 枚	蚕品種 繭生産 製糸 染色 製織 加工	春嶺×鐘月 山梨県内養蚕農家 松澤製糸所 (有) 石森染色 自社 自社
(数量の追加) (株) 宮坂製糸所 代表者名: 宮坂照彦 (担当者: 高橋耕一) 〒394-0023 長野県岡谷市東銀座 2-13-28 TEL: 0266-24-3626 表示者登録番号 179	先染帯地 (八寸名古屋帯)	60 本	蚕品種 繭生産 製糸 染色 製織	春嶺×鐘月・錦秋×鐘和 JA 上伊那管内養蚕農家 自社 織処丸重・小杉工房 織処丸重

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成27年1月30日 (H26-第5次) 現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有) 樹(いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物(色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物(色無地、黒紋付)、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯)、先染反物(御召類)、後染反物(色無地)、先染帯地(袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都市上京区	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	東京都中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、 白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）
031	(株) さが美	横浜市港南区	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	(有)特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地）、白生地（表地、胴裏、帯地）、婦人用 ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	(株) 梶屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋紬、緋）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種（株）	大阪市中央区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺）、後染帯地（九寸名古屋帯）、ニット（靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース）
061	（株）京扇	東京都中央区	後染反物（色無地）、胴裏（パールトーン加工）
062	（株）なごみや	横浜市都筑区	後染反物（色無地、黒紋付）
063	丸池藤井（株）	京都市中京区	後染反物（色無地）、八掛
064	久保商事（株）	京都市中京区	和装小物（帯揚げ、半衿）
065	加賀グンゼ（株）	石川県小松市	胴裏
066	千切屋（株）	京都市中京区	後染反物（訪問着、付下）、後染帯地
067	荒川（株）	京都市下京区	和装小物（帯締、帯揚げ）
068	第一衣料（株）	東京都中央区	後染反物（色無地）
069	（株）紅輪	川崎市宮前区	後染反物（色無地）
070	装いの道（株）	東京都千代田区	白生地（帯地、表地）、胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸）
071	（株）高橋屋	岩手県一関市	胴裏（灰汁浸加工）
072	おお又（株）	大阪市旭区	胴裏（灰汁浸加工）、ニット（靴下）
073	（株）天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏（ぐんま 200（灰汁浸加工））、白生地（表地）
074	（株）きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏（パールトーン加工）
075	（株）とみひろ	山形県山形市	胴裏（酵素精練）
076	（株）細安	福井県福井市	胴裏（酵素精練）
077	京和きもの（株）	神奈川県厚木市	胴裏（酵素精練）
078	（株）まるため	長野県長野市	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
079	（株）小川屋	群馬県前橋市	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工）
080	（株）エムラ	山口県防府市	胴裏（酵素精練）
081	（株）荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏（酵素精練）
082	（株）牛島屋	富山県富山市	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
083	（株）谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏（酵素精練）
084	（株）登美屋	岩手県北上市	胴裏（パールトーン加工）
085	（株）川平屋	愛知県豊田市	胴裏（パールトーン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
086	丸専第一衣料（株） （丸専きもの）	新潟県長岡市	胴裏（パールトーン加工）
087	（株）大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	（株）あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装 品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
096	(株) 北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が 5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が 5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が 5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袷紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が 5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
155	東朋 (株)	京都府与謝野町	ストール
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ)、服飾品 (スカーフ、ストール)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福続織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
165	(株) 染織 こうげい	東京都中央区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 麿	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越)、訪問着)、先染反物 (絁着尺)
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)
188	青山きもの (株)	東京都港区	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
189	ニット青木（株）	東京都品川区	ニット（スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー）
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物（綾御召（男物、女物））、裏地（紬八掛）
191	（株）リンクピース	福岡市博多区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
192	（有）新宮（きもの宮下）	宮崎県宮崎市	後染反物（小紋（変一越））
193	アトリエ ITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	（株）夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
197	（株）嗟が野	埼玉県川越市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）
198	（株）カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	（株）新田	山形県米沢市	後染反物（ぼかし着尺）
200	（株）ソーホー	京都市下京区	白生地（紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬）、後染反物（本加賀訪問着）
201	（株）すずのき	東京都品川区	後染反物（訪問着・色無地）
202	メーカーズシャツ鎌倉（株）	神奈川県鎌倉市	ニット（肌着）
203	（株）丸本岩崎	北海道函館市	裏地（胴裏絹）
204	（株）緒方商店 （きもの心おがた）	愛媛県八幡浜市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山 3 丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいてステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渚町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館 “紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「椽（つるばみ）」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 （一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1 - 6 - 8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888

名 称	〒	住 所	電 話
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619－ 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1－ 10－ 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564－ 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196－ 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618－ 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299－ 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109－ 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204－ 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448－ 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246－ 2	079-669-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後繊維工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.taafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www5.somard.co.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(独) 農業生物資源研究所 <http://www.nias.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科 <http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学 <http://www.kit.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府繊維・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都・上京）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

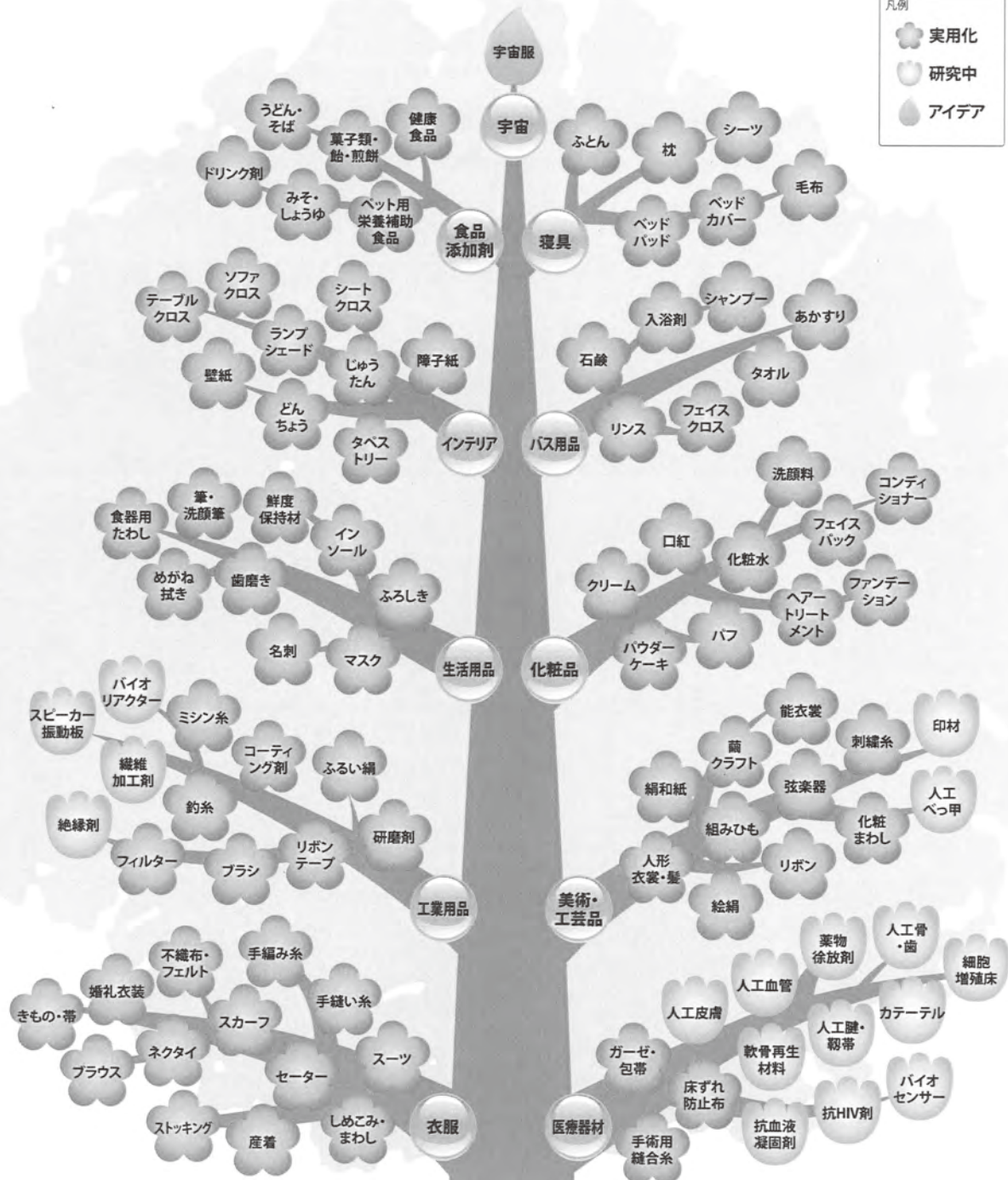
<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

絹利用の系統樹



絹利用検討会 (2012年)

原図: 小松 計一

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	58
(2) 養蚕農家数の推移	59
(3) 繭生産数量の推移	60
(4) 平成 25 年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	61
(5) 平成 25 年度蚕期別、都府県別繭生産数量	62
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2010 ～ 2013 年)	63
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	64
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	65
(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	66
(10) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	67
(11) 製糸工場の原料繭需給	68
(12) 製糸工場の操業状況	69
(13) 生糸在庫数量の内訳	70
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	71
(15) 生糸の原産国別輸入数量	72
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	73
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	74
(18) 絹織物生産数量	75
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	76
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	77

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	78
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	79
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	80
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	81
(5) 中国のシルク類 (生糸・絹糸・絹織物) の輸出状況	82
(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	83
(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	84
(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	85
(9) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	86
(10) 中国省別従業員年平均賃金 (2012 年)	87
(11) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	88
(12) ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移	89

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	10,418
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	9,974
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	35	32.0	10,054
前年対比(%) 2013/12	85.1	83.2	97.6	80.0	100.0	100.0	96.1	100.8

資料・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。

・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。

・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。

平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
対前年比 2013/12 (%)		85.1	82.1	81.5	86.4

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	60	41	67	346	142	158	168
対前年比 2013/12 (%)		83.2	75.9	82.0	91.8	97.6	91.7	101.1	105.6
2013年 構成比 (%)		100.0	35.7	24.4	39.9				

資 料 : 農林水産省統計情報部調査 (～2001年)、全国農業協同組合連合会調査 (2002年～2004年)、
農林水産省生産局調査 (2005～2008年)、(一財)大日本蚕糸会調査(2009年～)。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)平成25年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2013

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比
青森県	0	0	-	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	16	14	87.5	16	14	87.5	17	17	100.0	21	19	90.5
宮城県	18	17	94.4	11	10	90.9	17	13	76.5	21	21	100.0
山形県	7	7	100.0	6	6	100.0	7	6	85.7	8	8	100.0
福島県	58	53	91.4	50	23	46.0	57	57	100.0	65	58	89.2
茨城県	25	18	72.0	23	13	56.5	21	15	71.4	28	21	75.0
栃木県	27	22	81.5	21	17	81.0	26	23	88.5	27	26	96.3
群馬県	197	157	79.7	113	107	94.7	189	160	84.7	217	181	83.4
埼玉県	48	36	75.0	29	28	96.6	43	29	67.4	49	41	83.7
千葉県	9	7	77.8	6	5	83.3	8	7	87.5	12	7	58.3
東京都	4	4	100.0	0	0	-	5	4	80.0	6	5	83.3
新潟県	10	10	100.0	2	0	0.0	0	0	-	12	10	83.3
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	23	9	39.1	8	7	87.5	18	13	72.2	24	15	62.5
長野県	16	21	131.3	16	16	100.0	14	18	128.6	22	22	100.0
岐阜県	17	13	76.5	0	0	-	14	12	85.7	17	13	76.5
愛知県	2	2	100.0	2	0	0.0	0	1	-	2	2	100.0
京都府	4	4	100.0	0	0	-	3	3	100.0	4	4	100.0
兵庫県	1	1	100.0	1	0	0.0	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	17	12	70.6	8	7	87.5	10	10	100.0	18	15	83.3
高知県	3	3	100.0	0	0	-	1	2	200.0	3	3	100.0
熊本県	7	6	85.7	0	0	-	5	3	60.0	7	7	100.0
宮崎県	2	2	100.0	2	2	100.0	1	0	0.0	2	2	100.0
鹿児島県	2	3	150.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	514	422	82.1	319	260	81.5	462	399	86.4	571	486	85.1

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 平成25年度蚕期別、都府県別繭生産数量

Cocoon production by prefectures in 2013.

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比	24年	25年	前年対比
青森県	-	-	-	157.2	119.3	75.9%	131.8	151.9	115.3%	289.0	271.2	93.8%
岩手県	1,858.5	1,928.5	103.8%	2,968.4	2,348.0	79.1%	2,225.8	2,597.2	116.7%	7,052.7	6,873.7	97.5%
宮城県	2,305.8	2,369.7	102.8%	2,313.1	2,242.6	97.0%	2,633.0	2,699.2	102.5%	7,251.9	7,311.5	100.8%
山形県	1,200.6	1,311.0	109.2%	1,013.7	821.9	81.1%	1,603.9	1,482.0	92.4%	3,818.2	3,614.9	94.7%
福島県	10,681.1	10,475.9	98.1%	10,834.8	9,996.8	92.3%	14,384.8	13,435.7	93.4%	35,900.7	33,908.4	94.5%
茨城県	3,817.2	2,925.2	76.6%	2,478.9	1,499.5	60.5%	2,704.4	2,652.3	98.1%	9,000.5	7,077.0	78.6%
栃木県	7,663.1	5,923.3	77.3%	4,262.8	4,015.9	94.2%	9,605.6	9,809.9	102.1%	21,531.5	19,749.1	91.7%
群馬県	34,931.3	21,487.6	61.5%	17,645.8	13,463.2	76.3%	27,792.0	22,606.5	81.3%	80,374.1	57,557.3	71.6%
埼玉県	6,520.4	5,215.7	80.0%	2,593.8	2,854.0	110.0%	4,757.8	4,657.7	97.9%	13,872.0	12,727.4	91.7%
千葉県	1,213.3	917.5	75.6%	633.0	490.4	77.5%	944.4	1,028.4	108.9%	2,790.7	2,436.3	87.3%
東京都	235.1	242.3	103.1%	-	-	-	178.5	165.1	92.5%	413.6	407.4	98.5%
山梨県	2,978.8	2,157.8	72.4%	1,095.3	420.6	38.4%	1,769.2	1,495.4	84.5%	5,843.3	4,073.8	69.7%
長野県	2,129.2	1,951.5	91.7%	1,855.0	1,413.7	76.2%	1,974.1	1,864.9	94.5%	5,958.3	5,230.1	87.8%
新潟県	159.8	131.9	82.5%	-	-	-	-	-	-	159.8	131.9	82.5%
福井県	32.2	27.6	85.7%	18.9	14.3	51.6%	34.3	37.6	109.6%	85.4	79.5	93.1%
岐阜県	874.9	803.1	91.8%	-	-	-	605.0	439.0	72.6%	1,479.9	1,242.1	83.9%
愛知県	36.9	80.5	218.2%	62.0	0.0	-	-	17.7	-	98.9	98.2	99.3%
兵庫県	75.0	40.0	53.3%	38.2	0.0	-	41.5	35.0	84.3%	154.7	75.0	48.5%
京都府	102.5	102.9	100.4%	-	-	-	77.0	40.8	53.0%	179.5	143.7	80.1%
愛媛県	1,789.7	1,753.0	97.9%	1,551.1	1,005.8	64.8%	1,386.4	1,186.9	85.6%	4,727.2	3,945.7	83.5%
高知県	168.7	162.0	96.0%	-	-	-	15.3	16.0	104.6%	184.0	178.0	96.7%
熊本県	449.1	463.3	103.2%	-	-	-	347.9	340.1	97.8%	797.0	803.4	100.8%
宮崎県	120.4	88.1	73.2%	-	-	-	62.9	95.6	152.0%	183.2	183.7	100.3%
鹿児島県	49.5	46.6	94.1%	69.0	43.3	62.8%	51.0	57.5	112.7%	169.5	147.4	87.0%
全国計	79,393.1	60,604.8	76.3%	49,591.0	40,749.3	82.2%	73,331.6	66,912.4	91.2%	202,315.6	168,266.4	83.2%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
生糸年度 Silk Year									
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	5	20,281	5,281	22,937	290	12,282	7,132
2008	1,378	12,127	266	14,362	4,158	18,726	306	10,446	6,810
2009	1,029	12,845	149	14,222	3,661	17,481	366	8,647	6,215
2010	814	12,172	1,034	13,164	2,999	17,729	377	9,310	6,272
2011	652	8,602	279	9,626	2,348	15,540	433	7,549	5,945
2012	436	10,005	388	9,999	2,402	17,465	301	7,068	5,500
2013	419	8,626	178	9,149	1,999	14,763	425	6,350	5,501
2013 — 1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12		600	3			1,094	27	534	428

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。 (B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興 機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。 (F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D) と (E) は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk A (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
暦 年 Calendar Year	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	—	149	202	73	82
2013	409	—	109	105	57	138
生糸年度						
Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	—	205	358	208	242
2010	814	1	176	273	55	309
2011	652	1	164	239	117	134
2012	437	—	128	175	46	88
2012 - 5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7
2013 - 1	38	—	16	3	10	9
2	32	—	6	12	5	9
3	36	—	10	15	3	8
4	36	—	7	13	6	10
5	35	—	8	9	9	9
6	36	—	8	13	0	15
7	28	—	8	5	1	14
8	19	—	7	1	0	11
9	26	—	13	1	2	10
10	40	—	9	6	11	14
11	42	—	9	12	6	15
12	41	—	8	15	4	14
2014 - 1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	35	—	9	12	9	5

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					二 次 The Second	輸 出 Export					内 需	在庫 Ending Stocks ④	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	計 ③ Total		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	Domestic Demand ②-③			
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
対前年比 2013/12 (%)	108	98	0	111	90	100	93	115	110	93	—	—	93	100	112	98

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source："Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		3.9	2.5	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	129.2	1.9
	女子用外衣類 Women's upper garments		50.0	40.2	37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	127.0	38.8
	うちブラウス Blouse of the inside		3.0	3.4	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	272.7	3.7
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		2.2	1.6	1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	126.7	1.2
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		15.0	16.3	13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	132.3	12.5
	ハンカチ Handkerchief		0.5	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	133.3	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.0	2.9	2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	95.7	1.3
	ネクタイ類 Ties		21.6	20.8	18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	93.0	7.3
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		21.2	19.8	15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	115.0	15.9
	その他の洋装類 Other western clothes		25.4	23.7	22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	99.0	11.5
洋装類計 Western clothes subtotal			143.0	128.3	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	117.3	90.7
和装類計 Japanese clothes subtotal			15.5	14.7	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	110.2	7.9
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside		12.9	12.1	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	108.9	6.7
その他 Others			2.5	2.4	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	71.9	1.4
合 計 Total			161.0	145.4	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	115.7	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	806	830	589
	2006	600	645	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
生糸年度 Silk Year				
	2005	837	693	390
	2006	562	599	349
	2007	502	583	266
	2008	406	452	224
	2009	324	337	209
	2010	260	281	188
	2011	202	224	144
	2012	142	160	126
	2013	138	143	121
2013 —	1	0	11	172
	2	1	10	163
	3	0	13	150
	4	0	14	136
	5	3	13	126
	6	21	11	136
	7	38	10	164
	8	16	7	173
	9	7	8	172
	10	40	13	199
	11	4	13	190
	12	12	14	188
2014 —	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。

中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11)。

Central Raw Silk Association (2012. 12～)。

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month)。

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		7	112	90	80	266	90
2009		7	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2011		7	110	57	52	252	65
2012		7	110	39	35	243	56
2013		7	110	38	35	249	57
2012 —	1	7	110	51	46	18	63
	2	7	110	48	44	19	63
	3	7	110	47	43	19	63
	4	7	110	53	48	22	57
	5	7	110	60	55	21	56
	6	7	110	50	45	22	56
	7	7	110	38	35	14	57
	8	7	110	24	22	20	52
	9	7	110	29	26	21	52
	10	7	110	40	36	23	56
	11	7	110	41	37	22	58
	12	7	110	39	35	22	56
2013 —	1	7	110	41	37	20	55
	2	7	110	36	33	21	55
	3	7	110	35	32	22	55
	4	7	110	36	33	22	58
	5	7	110	33	30	22	60
	6	9	110	34	31	18	67
	7	8	110	25	23	23	61
	8	6	110	16	15	20	53
	9	7	110	33	30	14	59
	10	7	110	36	33	23	59
	11	7	110	37	34	22	57
	12	7	110	38	35	22	57
2014 —	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。

中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012. 12～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～)。

Central Raw Silk Association(2012. 12～)。

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
生糸年度 (6～5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,205	4,205	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	—	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	—	2,014	700			
2011	2,348	2,348	304	—	1,481	583			
2012	2,402	2,402	251	—	2,151				
2013	2,266	2,266	137	—	2,129				
2013 — 1	2,162	2,162	136	—	2,026				
2	2,282	2,282	143	—	2,139				
3	2,432	2,432	136	—	2,296				
4	1,901	1,901	137	—	1,764				
5	2,281	2,281	130	—	2,151				
6	2,266	2,266	137	—	2,129				
7	2,203	2,203	118	—	2,085				
8	2,097	2,097	110	—	1,987				
9	1,946	1,946	97	—	1,849				
10	1,907	1,907	103	—	1,804				
11	1,701	1,701	110	—	1,591				
12	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014 — 1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成21年～26年12月)
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2009～Dec. 2014)

	単位 Unit	平成26年(2014)		平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	26年/25年 2014/13 (%)
		(12月) Dec.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	600	8,235	9,332	10,032	9,323	12,207	12,075	88.2
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,094	14,820	15,844	16,179	17,526	16,306	16,647	93.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	48	169	81	62	82	149	28.4
繭 Cocoon	kg	0	10,200	8,300	6,250	4,050	13,158	9,800	122.9
真綿 Floss Silk	kg	-	-	-	-	-	-	-	-
ペニ Peigne	kg	-	-	-	-	-	-	35,331	-
くず繭 Waste Cocoon	kg	0	11,728	13,314	6,457	10,885	9,395	33,450	88.1
絹ノイル Silk Noil	kg	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	7,350	101,655	92,024	107,023	98,732	134,852	125,999	110.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	7,350	113,383	105,338	107,022	109,617	144,247	159,449	107.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	46,244	453,450	438,786	482,523	394,920	451,219	335,710	103.3
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	11,634	141,707	152,749	140,188	118,404	104,374	97,554	92.8
絹織物 Silk Fabrics	m ²	534,731	6,097,501	6,661,585	7,218,094	8,422,094	8,930,391	9,027,911	91.5

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country 年 月 Year & Month		計		中国		ブラジル		ベトナム		タイ		その他	
		Total		China		Brazil		Vietnam		Thailand		Others	
暦年 Calendar Year													
2008		15,242	(137)	10,969	(102)	4,152	(35)	-		122		-	
2009		12,085	(72)	8,170	(51)	3,855	(21)	-		41		-	
2010		12,209	(65)	8,411	(40)	3,706	(25)	-		32		-	
2011		9,323	(63)	7,170	(32)	2,136	(30)	-		5		-	
2012		10,032	(49)	8,628	(36)	1,403	(13)	-		-		-	
2013		9,332	(98)	8,047	(59)	1,275	(34)	10	(5)	-		-	
生糸年度 Silk Year													
2008		12,138	(103)	8,572	(89)	3,435	(14)	11		122		-	
2009		12,857	(66)	8,787	(38)	3,896	(28)	11		73		-	
2010		12,172	(79)	9,062	(65)	3,068	(14)	1		39		-	
2011		8,602	(53)	6,846	(21)	1,754	(32)	1		39		-	
2012		10,005	(89)	8,542	(64)	1,454	(25)	5					
2013		8,625	(77)	7,405	(49)	1,188	(28)	10	(5)	3		20	
2013 - 1		958	(10)	918	(10)	40		-		-		-	
2		906	(9)	698	(7)	207	(2)	-		-		-	
3		1,148	(17)	1,083	(17)	65		-		-		-	
4		-		-		-		-		-		-	
5		1,314	(25)	1,031	(15)	278	(10)	5		-		-	
6		925		841		84		-		-		-	
7		611	(2)	539		72	(2)	-		-		-	
8		758	(15)	577		176	(10)	5	(5)	-		-	
9		566		546		20		-		-		-	
10		855	(15)	689	(10)	166	(5)	-		-		-	
11		491		416		75		-		-		-	
12		800	(6)	708		92	(6)	-		-		-	
2014 - 1		776		687		88		-		1		-	
2		591	(2)	465	(2)	107		-		-		20	
3		1,055	(13)	973	(13)	76		5		-		-	
4		270	(4)	169	(4)	100		-		2		-	
5		927	(20)	795	(20)	132	(5)	-		-		-	
6		869	(7)	683	(7)	133	(10)	50		2		-	
7		599		522		75		-		2		-	
8		548		459		79		10		-		-	
9		591		480		111		-		-		-	
10		748	(14)	660	(14)	83		5		-		-	
11		667	(5)	564	(5)	103		-		-		-	
12		600	(10)	544	(10)	56		-		-		-	

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country 年月 Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010	16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011	17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012	16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013	15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014	14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2012 — 1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	80
2	758	—	378	216	1	—	162	—
3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
4	1,092	—	662	326	—	—	103	—
5	1,531	—	1,001	328	—	—	124	78
6	1,316	—	727	514	1	—	75	—
7	1,554	—	907	488	—	—	97	53
8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
9	1,365	—	773	506	1	—	73	12
10	1,523	—	953	456	3	—	112	—
11	1,612	—	982	568	5	—	56	—
12	1,207	—	824	310	1	—	71	—
2013 — 1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
9	918	—	489	413	1	—	15	—
10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 — 1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
2	677	—	313	271	1	—	91	—
3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
12	1,094	—	647	402	1	—	45	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/K g

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	92	5,958	353	4,345
2	289	4,024	193	5,297	378	4,137	162	5,560	216	4,264
3	870	4,296	61	5,241	747	4,323	113	6,187	281	4,731
4	-	-	-	-	662	4,372	103	6,065	326	4,887
5	1,508	4,311	249	5,220	1,001	4,304	124	6,048	328	4,625
6	360	4,347	99	5,005	727	4,370	75	5,876	515	4,703
7	526	4,220	110	5,013	907	4,502	97	5,930	488	4,591
8	817	4,130	81	5,151	897	4,433	41	5,850	561	4,402
9	750	4,212	141	5,353	773	4,315	73	6,167	506	4,320
10	660	4,151	139	5,333	953	4,295	112	6,224	456	4,435
11	963	4,405	159	5,417	982	4,514	56	6,347	568	4,130
12	736	4,758	130	5,571	824	4,815	71	6,599	310	4,755
2013 - 1	918	5,103	40	6,180	1,080	5,172	52	7,079	612	5,084
2	698	6,029	207	6,284	616	5,574	93	7,318	429	5,362
3	1,083	5,733	65	6,749	940	5,959	50	7,806	342	5,789
4	-	-	-	-	880	6,106	95	8,026	574	5,974
5	1,031	6,132	278	7,271	1,012	6,311	71	8,405	545	6,105
6	841	6,237	84	7,517	660	6,461	67	8,602	446	6,505
7	539	5,855	72	7,850	729	6,285	38	8,783	555	6,362
8	577	6,223	176	7,869	750	6,469	118	8,807	419	6,392
9	546	6,250	20	8,035	489	6,468	15	8,853	413	6,485
10	689	6,242	166	8,049	682	6,443	131	8,821	541	6,208
11	416	6,178	75	7,918	676	6,480	181	8,878	576	6,508
- 12	708	6,494	93	8,355	635	6,702	66	9,383	331	6,585
2014 - 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000m²)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
暦 年 Calendar Year									
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,418	4,105	2,615	198	1,292	4,338	1,615	2,719	1,979
2012	9,974	4,548	2,482	200	1,875	3,172	1,776	1,395	2,254
2013	10,062	4,688	2,546	192	1,953	3,039	1,479	1,551	2,334
2013 — 1	818	381	207	16	159	247	120	126	190
2	829	386	210	16	161	250	122	128	192
3	849	396	215	16	165	256	125	131	197
4	883	412	223	17	171	267	130	136	205
5	842	392	213	16	163	254	124	130	195
6	877	408	222	17	170	265	129	135	203
7	900	420	228	17	175	272	132	139	209
8	716	333	181	14	139	216	105	110	166
9	746	348	189	14	145	225	110	115	173
10	887	413	224	17	172	268	130	137	206
11	859	400	217	16	167	260	126	132	199
12	856	399	217	16	166	259	126	132	199
2014 — 1	787	383	218	13	153	217	106	110	188
2	815	396	226	13	158	224	110	114	195
3	811	394	225	13	157	223	110	114	194
4	835	406	231	13	162	230	113	117	200
5	853	414	236	14	165	234	115	119	204
6	863	419	239	14	167	237	116	121	206
7	811	394	225	13	157	223	110	114	194
8	668	324	185	11	130	184	90	93	160
9	709	344	196	11	137	195	96	99	169
10	757	368	210	12	147	208	102	106	181
11	726	353	201	12	141	200	98	102	173

資 料：(一社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	9,944	96.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	10,062	101.2	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2012 — 1	801	98.4	29,890	91.3	4,787	87.8	51,823	83.7
2	818	93.7	38,352	90.5	5,632	93.4	65,046	107.4
3	832	91.9	37,766	90.4	5,306	76.9	62,163	110.8
4	832	83.8	42,234	94.3	5,614	86.3	57,688	96.1
5	866	103.1	33,283	83.8	6,109	100.2	56,873	90.9
6	887	97.4	43,214	103.4	5,335	87.9	47,616	78.3
7	866	103.8	39,999	91.9	5,967	110.5	47,268	87.9
8	743	95.4	31,797	92.5	4,052	67.0	45,892	93.5
9	719	91.2	39,579	102.4	5,051	93.6	44,900	73.0
10	880	107.2	36,734	93.9	5,159	92.3	55,813	108.2
11	880	100.5	38,312	102.5	4,994	84.2	56,530	101.3
12	849	95.5	40,343	101.3	4,904	91.2	54,067	103.1
2013 — 1	818	102.1	25,024	83.7	4,453	93.0	54,617	105.4
2	829	101.3	41,930	109.3	4,632	82.2	52,253	80.3
3	849	102.0	37,110	98.3	4,306	81.2	55,771	89.7
4	883	106.1	38,904	92.1	5,498	97.9	61,790	107.1
5	842	97.2	34,916	104.9	4,794	78.5	59,581	104.8
6	877	98.9	40,887	94.6	4,694	88.0	49,312	103.6
7	900	103.9	36,717	91.8	5,023	84.1	46,098	97.5
8	716	96.4	30,707	96.6	3,564	81.9	43,162	94.1
9	746	103.8	39,079	98.7	4,974	100.4	45,834	102.1
10	887	100.8	32,162	87.6	4,960	82.8	53,507	95.9
11	859	97.6	39,338	102.7	4,170	83.5	56,868	100.6
12	856	100.8	36,677	90.9	4,724	96.3	51,793	95.8
2014 1	787	96.2	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	815	98.3	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	811	95.5	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	835	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	853	101.3	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	863	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	811	90.1	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	668	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	709	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	757	85.3	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	726	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況
Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2012 - 4	301,948	2.6	11,687	4.3	95	2.9	4,399	5.4	2,434	1.1	934	5.0
5	287,911	4.0	11,592	▲ 2.5	124	150.1	3,801	▲ 7.2	2,771	▲ 0.7	1,072	▲ 6.6
6	269,810	1.6	11,208	▲ 1.4	169	49.2	3,627	0.4	2,760	▲ 5.4	1,169	▲ 4.5
7	283,295	1.7	11,920	▲ 1.5	239	▲ 15.4	3,923	▲ 3.7	3,161	0.7	1,286	▲ 2.8
8	286,036	1.4	8,627	▲ 3.3	381	▲ 17.1	2,685	0.0	2,062	0.5	960	1.9
9	266,705	▲ 1.2	8,436	▲ 3.1	188	▲ 15.8	2,900	▲ 1.9	1,876	▲ 1.0	837	▲ 2.5
10	284,238	▲ 0.5	12,195	▲ 6.9	244	▲ 61.4	4,637	▲ 7.5	2,559	▲ 8.2	1,129	▲ 5.6
11	273,772	0.1	13,814	4.4	545	10.3	5,394	7.8	2,541	▲ 3.8	1,382	8.5
12	325,492	▲ 0.8	13,813	0.2	172	215.0	5,571	4.0	2,475	▲ 2.7	1,526	▲ 6.9
2013 - 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2009	2010	対前年比 2010/09	2009	2010	対前年比 2010/09
山 西	Shanxi	4,046	5,894	146	266	182	68
河 北	Hebei	1,200	1,500	125	—	—	—
江 蘇	Jiangsu	73,175	77,399	106	17,800	16,000	90
浙 江	Zhejiang	45,600	57,000	125	15,000	14,436	96
安 徽	Anhui	24,800	25,000	101	5,200	6,438	124
江 西	Jiangxi	7,602	7,000	92	2,900	3,591	124
山 東	Shandong	23,900	22,000	92	5,800	7,510	129
河 南	Henan	10,101	7,500	74	2,100	103	5
湖 北	Hubei	17,150	10,600	62	555	446	80
湖 南	Hunan	3,182	2,452	77	104	197	189
広 東	Guangdong	53,321	39,300	74	1,722	1,711	99
広 西	Guangxi	172,900	214,000	124	16,237	18,164	112
重 慶	Chongqing	17,311	17,200	99	4,200	4,000	95
四 川	Sichuan	70,000	71,000	101	14,900	14,900	100
貴 州	Guizhou	2,751	1,460	53	105	134	128
雲 南	Yunnan	30,230	40,000	132	2,237	2,138	96
陝 西	Shaanxi	17,200	17,600	102	3,263	3,664	112
甘 肅	Gansu	253	304	120	—	—	—
寧 夏	Ningxia	126	126	100	—	—	—
新 疆	Xinjiang	450	580	129	—	—	—
内 蒙 古	Inner Mongolia	—	—	—	66	64	97
合 計	Total	575,299	617,915	107	92,455	95,778	104

製糸工場数（件） Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比 10/09(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	125
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	146
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai						0.0	0.0						
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	106
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	125
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	101
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	92
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	92
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	74
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	77
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	74
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	124
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	99
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	101
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	53
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	132
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	102
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	107

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況

Silk Exports of China
(2012年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	4,505,837	109.52	210,390	100.64
2 ベトナム	Vietnam	783,904	125.53	38,084	124.02
3 ルーマニア	Romania	729,411	100.11	35,729	93.89
4 日本	Japan	482,249	119.68	25,830	114.45
5 韓国	South Korea	412,421	88.43	20,393	83.14
6 イタリア	Italy	309,833	99.30	15,627	90.46
7 バングラデッシュ	Bangladesh	105,212	119.12	4,869	111.62
8 ミャンマー	Myanmar	99,217	120.59	4,827	114.80
9 ブラジル	Brazil	41,321	93.39	2,253	95.72
10 ブルガリア	Bulgaria	39,232	250.59	2,008	237.55
11 その他	Others	165,357	68.19	8,442	66.12
合計	Total	7,673,994	107.75	368,452	100.47

Silk Exports of China
(2013年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 インド	India	3,234,255	71.78	175,674	83.50
2 ルーマニア	Romania	956,164	131.09	54,148	151.55
3 ベトナム	Vietnam	879,436	112.19	48,996	128.65
4 日本	Japan	441,864	91.63	27,008	104.56
5 イタリア	Italy	375,606	121.23	22,116	141.53
6 韓国	South Korea	322,193	78.12	18,240	89.44
7 バングラデッシュ	Bangladesh	112,589	107.01	6,218	127.72
8 ブラジル	Brazil	86,068	208.29	5,249	233.02
9 ミャンマー	Myanmar	82,686	83.34	4,641	96.14
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	69,375	379.55	3,757	429.44
11 その他	Others	129,996	69.77	7,560	78.96
合計	Total	6,690,232	87.18	373,607	101.39

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 日本	Japan	655,083	100.22	35,489	94.83
2 インド	India	399,229	45.92	19,203	43.04
3 イタリア	Italy	370,973	69.85	19,699	64.49
4 ドイツ	Germany	256,806	128.67	13,932	135.84
5 パキスタン	Pakistan	249,628	92.67	12,357	88.13
6 韓国	South Korea	188,559	103.41	9,625	98.64
7 タイ	Thailand	108,350	79.70	5,628	71.47
8 インドネシア	Indonesia	75,921	80.69	3,737	76.81
9 ベトナム	Vietnam	47,662	143.83	2,312	135.88
10 香港	Hong Kong	27,214	205.14	1,036	197.85
11 その他	Others	196,543	97.95	9,827	94.46
合計	Total	2,575,968	80.94	133,927	78.30

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 日本	Japan	625,692	95.51	38,265	107.82
2 イタリア	Italy	429,633	115.81	26,632	135.19
3 インド	India	315,664	79.07	17,728	92.32
4 ドイツ	Germany	221,637	86.31	14,577	105.45
5 韓国	South Korea	155,680	82.56	9,110	94.65
6 パキスタン	Pakistan	149,864	60.03	8,760	70.89
7 タイ	Thailand	97,648	90.12	5,910	105.02
8 インドネシア	Indonesia	64,493	84.95	3,660	97.93
9 リビア	Libya	33,790	170.64	2,829	192.83
10 トルコ	Turkey	32,426	651.12	1,963	678.20
11 その他	Others	215,646	87.43	12,115	102.85
合計	Total	2,342,173	90.92	141,549	115.90

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 パキスタン	Pakistan	60,795,118	123.71	221,429	136.62
2 イタリア	Italy	30,611,776	91.29	173,999	93.77
3 インド	India	22,883,399	71.21	107,334	74.15
4 香港	Hong Kong	14,413,983	98.38	104,429	102.96
5 韓国	South Korea	11,463,400	82.42	76,701	91.32
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,815,910	134.63	61,898	169.70
7 日本	Japan	9,265,038	89.70	43,154	92.75
8 マレーシア	Malaysia	7,114,607	111.84	38,315	100.89
9 アメリカ	United States	5,571,051	89.10	42,063	95.11
10 トルコ	Turkey	3,799,272	73.73	21,575	79.00
11 その他	Others	1,251,674	80.75	166,336	89.02
合計	Total	206,985,228	95.19	943,958	100.01

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2013年実績	13/12(%)	2013年実績	13/12(%)
1 パキスタン	Pakistan	47,586,463	78.27	204,414	92.31
2 イタリア	Italy	26,638,448	87.02	160,210	92.08
3 インド	India	16,848,146	73.63	88,764	82.70
4 香港	Hong Kong	10,876,747	75.46	86,259	82.60
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,856,944	100.42	67,575	109.17
5 韓国	South Korea	8,955,041	78.12	64,641	84.28
7 日本	Japan	8,034,285	86.72	40,938	94.82
8 マレーシア	Malaysia	5,848,811	82.21	36,385	94.96
9 アメリカ	United States	4,467,178	80.18	37,605	89.40
10 トルコ	Turkey	4,270,322	112.40	27,942	129.51
11 その他	Others	23,954,769	76.61	145,636	87.49
合計	Total	167,337,154	80.84	960,369	90.83

資料:中国税関

Source:Customs General Administration in China

資料: 中国税関

Source: Customs General Administration in China

(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2014年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		105.00 ~ 121.00	1,995 ~ 2,299
2	玉繭(double cocoon)		93.72 ~ 104.32	1,781 ~ 1,982
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	96.80 ~ 105.28	1,839 ~ 2,000
4	ビス(bisu)		75.68 ~ 84.44	1,438 ~ 1,604
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	319.96 ~ 324.40	6,079 ~ 6,164
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	322.40 ~ 327.36	6,126 ~ 6,220
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	315.80 ~ 319.80	6,000 ~ 6,076
8	玉糸(doupion silk)	110d	305.86 ~ 320.06	5,811 ~ 6,081
9	土糸(native silk)	110d	292.26 ~ 301.44	5,553 ~ 5,727
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(元/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	31.14 ~ 32.44	592 ~ 616
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.14 ~ 27.54	497 ~ 523
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	46.80 ~ 48.60	889 ~ 923
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	50.24 ~ 51.74	955 ~ 983
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	41.62 ~ 50.60	791 ~ 961
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	35.80 ~ 47.60	680 ~ 904

注:1元=19円

2015年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		106.00 ~ 118.45	2,014 ~ 2,251
2	玉繭(double cocoon)		93.90 ~ 102.03	1,784 ~ 1,938
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	98.25 ~ 106.43	1,867 ~ 2,022
4	ビス(bisu)		78.55 ~ 88.63	1,492 ~ 1,684
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	318.30 ~ 322.03	6,048 ~ 6,118
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	321.80 ~ 326.90	6,114 ~ 6,211
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	310.00 ~ 318.00	5,890 ~ 6,042
8	玉糸(doupion silk)	110d	309.35 ~ 322.90	5,878 ~ 6,135
9	土糸(native silk)	110d	292.28 ~ 305.73	5,553 ~ 5,809
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(元/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	31.22 ~ 32.41	593 ~ 616
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.50 ~ 27.75	504 ~ 527
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	48.25 ~ 49.75	917 ~ 945
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	50.32 ~ 51.63	956 ~ 981
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	42.40 ~ 46.50	806 ~ 884
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	36.05 ~ 48.50	685 ~ 922

注:1元=19円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	26.8	16.3	21.2	39.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	18.3	13.8	14.6	22.9

資料：中国統計年鑑(2013)

Source: China Statistical Yearbook 2013

(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名目賃金 Average Wage				実質賃金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	14.4	13.4	19.9	15.4	8.6	7.7	13.9	9.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	11.9	11.2	17.3	12.2	9.0	8.3	14.2	9.3

中国統計年鑑2013 Source: China Statistical Yearbook 2013

(9)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074
合 計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769

(出所)中国統計年鑑2013

Source: China Statistical Yearbook 2013

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450
合 計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997
年別人民元yuan/円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00

(10) 中国省別従業員年平均賃金 (2012年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省（区）別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	84,742	1,101,646	181.19
天	津	Tianjin	61,514	799,682	131.53
河	北	Hebei	38,658	502,554	82.66
山	西	Shanxi	44,236	575,068	94.58
内	蒙	Inner Mongolia	46,557	605,241	99.55
遼	寧	Liaoning	41,858	544,154	89.50
吉	林	Jilin	38,407	499,291	82.12
黒	龍	Heilongjiang	36,406	473,278	77.84
上	海	Shanghai	78,673	1,022,749	168.22
江	蘇	Jiangsu	50,639	658,307	108.27
浙	江	Zhejiang	50,197	652,561	107.33
安	徽	Anhui	44,601	579,813	95.36
福	建	Fujian	44,525	578,825	95.20
江	西	Jiangxi	38,512	500,656	0.04
山	東	Shandong	41,904	544,752	89.60
河	南	Henan	37,338	485,394	79.83
湖	北	Hubei	39,846	517,998	85.20
湖	南	Hunan	38,971	506,623	83.33
広	東	Guangdong	50,278	653,614	107.50
広	西	Guangxi	36,386	473,018	77.80
海	南	Hainan	39,485	513,305	84.43
重	慶	Chongqing	44,498	578,474	95.14
四	川	Sichuan	42,339	550,407	90.53
貴	州	Guizhou	41,156	535,028	88.00
雲	南	Yunnan	37,629	489,177	80.46
西	蔵	Tibet	51,705	672,165	110.55
陝	西	Shaanxi	43,073	559,949	92.10
甘	肅	Gansu	37,679	489,827	80.56
青	海	Qinghai	46,483	604,279	99.39
寧	夏	Ningxia	47,436	616,668	101.43
新	疆	Xinjiang	44,576	579,488	95.31
全国平均		Average	46,769	607,997	100.00

(出所) 中国統計年鑑2013 Source: China Statistical Yearbook 2013

(注) 1 元=13円 Note: 1yuan=13yen

(11)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,570 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,650 (103%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014 〔見込み〕 〔Estimate〕	445,000 (101%)	7,417
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	460,000 (103%)	7,667

資料：ブラタク製糸株式会社

注：()内は対前年比

[]内の見込みは2013年9月現在

Source: Fiação de Seda Brtác S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of September 2013.

(12)ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移

Raw Silk and Thrown Silk Yarns Exportation

区 分		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
		kg %	kg %	kg %	kg %	kg %	kg %
日本	Japan	442,264 44%	296,578 34%	294,346 38%	249,069 49%	136,110 32%	140,010 32%
ベトナム	Vietnam	243,950 25%	308,464 36%	217,347 28%	118,034 23%	82,959 19%	51,491 12%
フランス	France	101,391 10%	74,747 9%	53,441 7%	87,886 17%	180,368 42%	202,938 46%
イタリア	Italy	83,032 8%	68,418 8%	143,159 19%	42,913 9%	26,951 6%	28,285 6%
韓国	South Korea	43,844 4%	25,259 3%	27,916 4%	0 0%	302 0%	303 0%
トルコ	Turkey	21,370 2%	16,165 2%	21,131 3%	3,660 1%	0 0%	0 0%
ドイツ	Germany	6,095 1%	0 0%	3,742 0%	4,940 1%	5,417 1%	4,815 1%
インド	India	38,072 4%	73,181 8%	3,600 0%	0 0%	0 0%	7,950 2%
チュニジア	Tunisia	2,428 0%	0 0%	2,609 0%	1,205 0%	0 0%	0 0%
スイス	Switzerland	11,344 1%	758 0%	256 0%	5 0%	12 0%	18 0%
その他	the others	1,012 0%	3,189 0%	242 0%	117 0%	230 0%	348 0%
合 計	Total	994,801 100%	866,759 100%	767,789 100%	507,829 100%	432,349 100%	436,158 100%

資 料 : プラタク製糸株式会社

Source : Fiação de Seda Brtac S.A

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2015 年 3 月号 NO.41 平成 27 年 3 月 1 日発行

編集 / 発行

(問い合わせ先)

**一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL: <http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷

株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず